

(資料2 - 5) 個別系列のパフォーマンス
L1 最終需要財在庫率指数

< 先行 >

図1 Bry-Boschan法による山谷

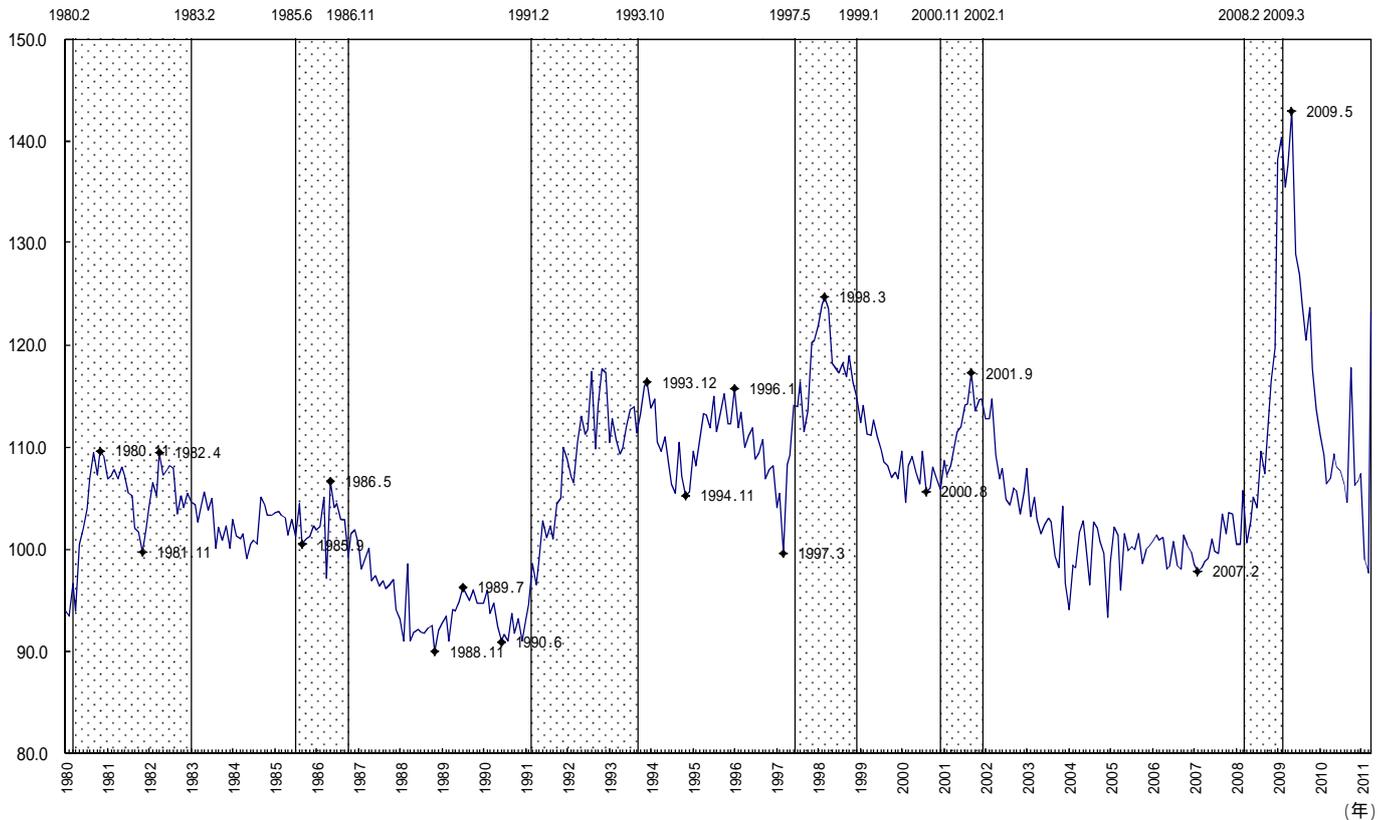


図2 パターン分析

図3 時差相関

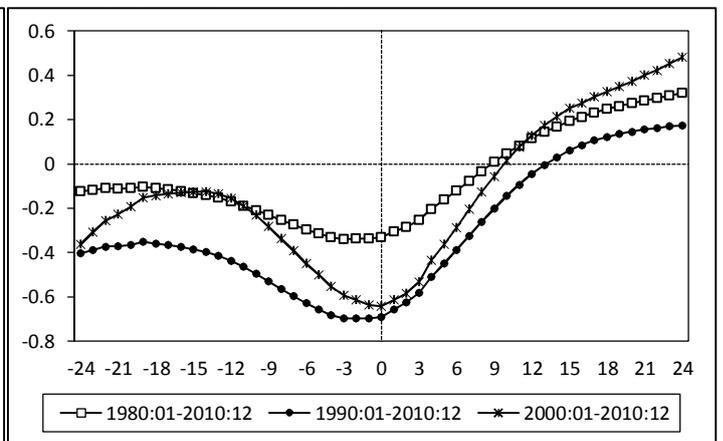
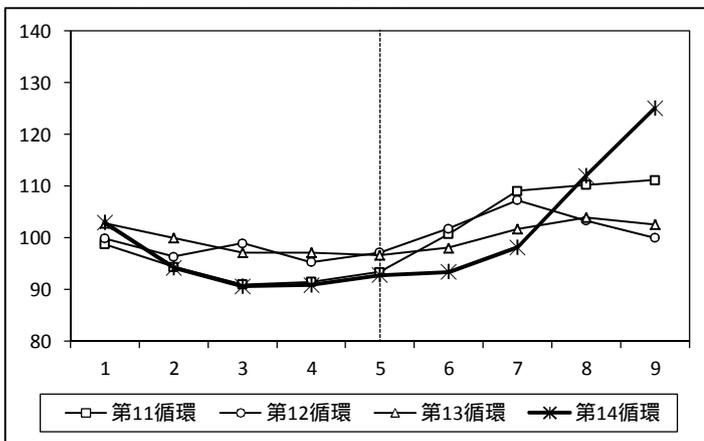


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010: -3	第9～14循環: +2 第12～14循環: +1	3
	1990-2010: -1		
	2000-2010: 0		

図1 Bry-Boschan法による山谷

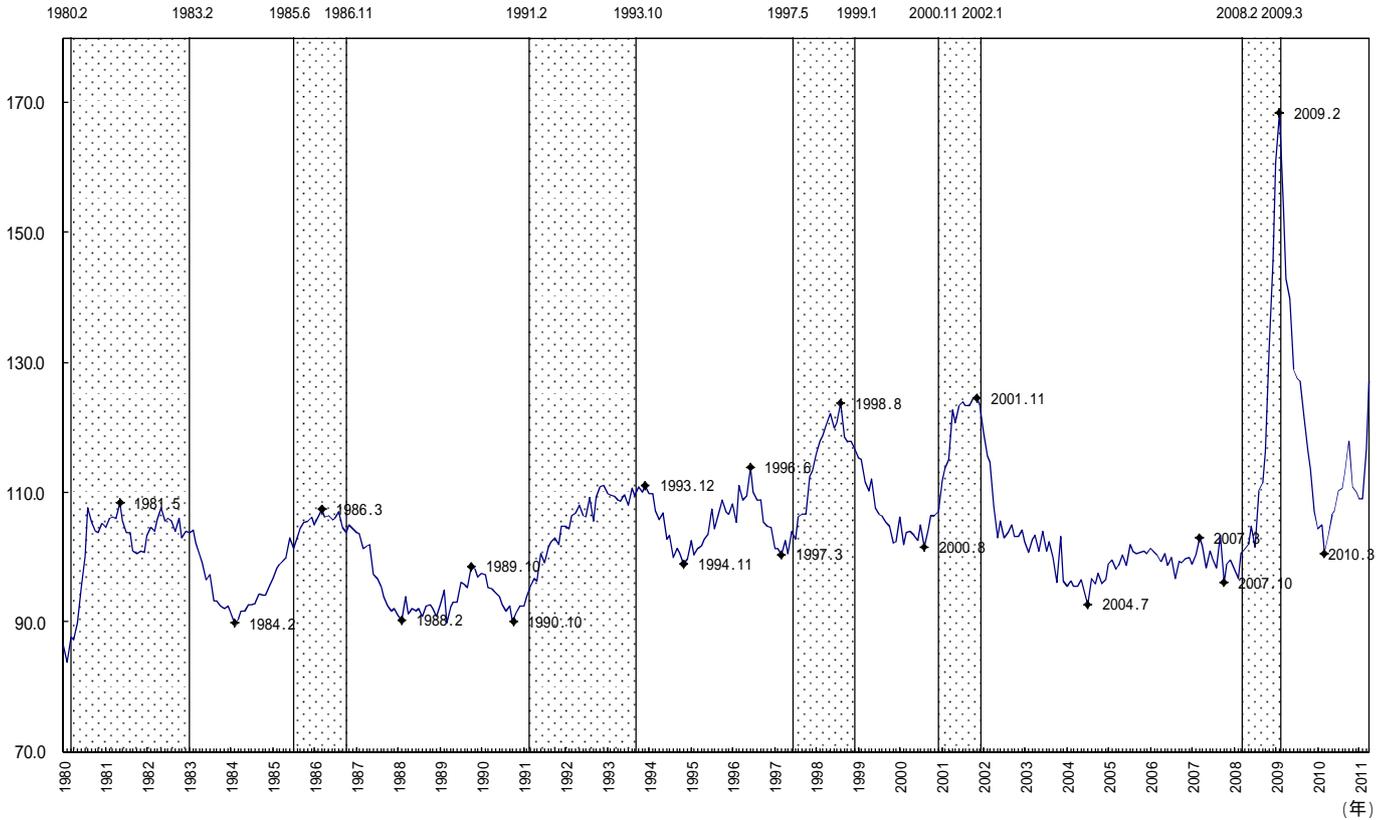


図2 パターン分析

図3 時差相関

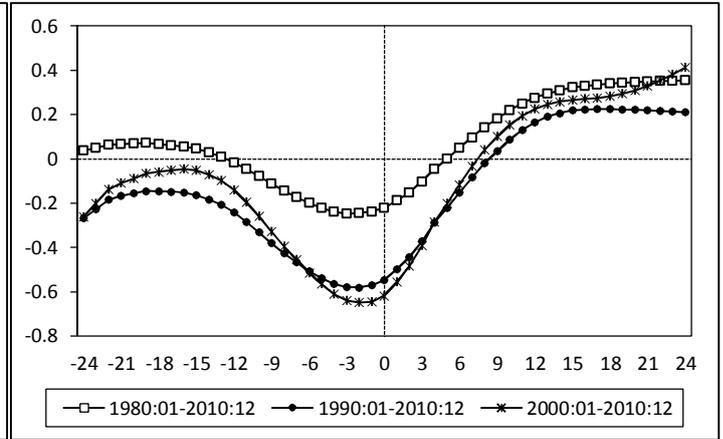
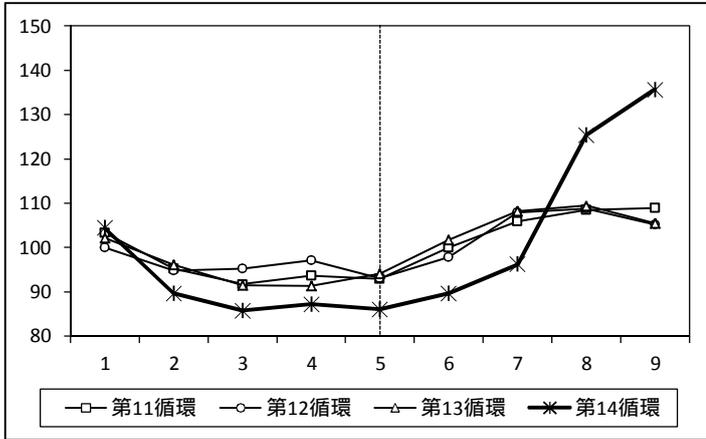


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010: -3	第9～14循環: +3 第12～14循環: +2	2
	1990-2010: -2		
	2000-2010: -2		

図1 Bry-Boschan法による山谷

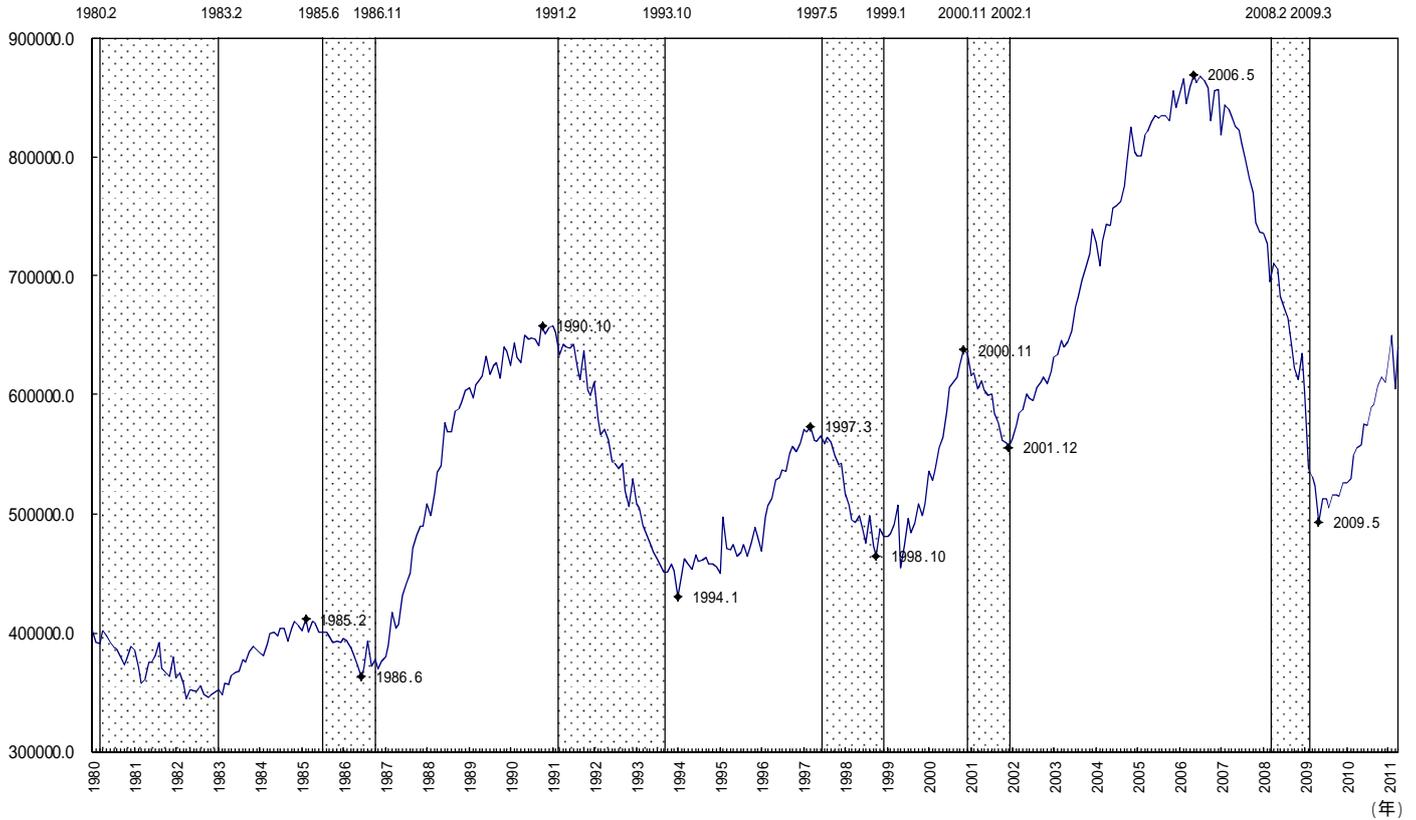


図2 パターン分析

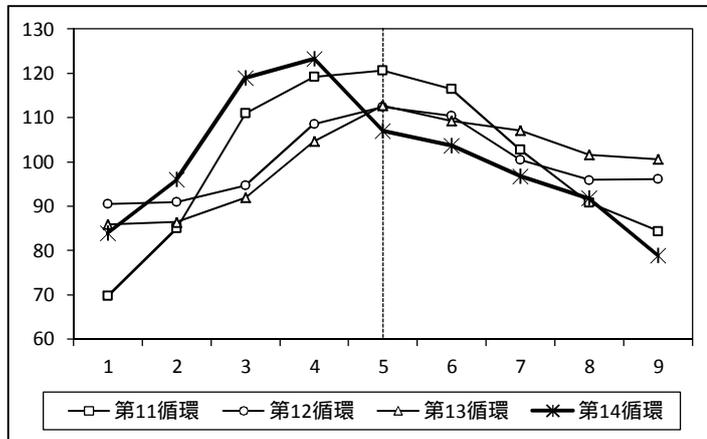


図3 時差相関

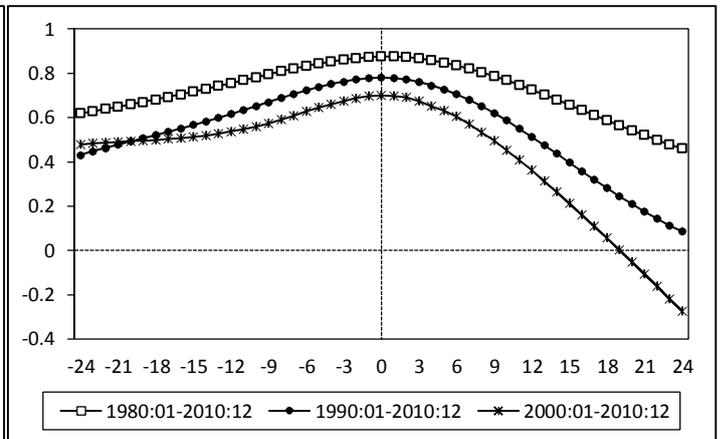


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:0	第9～14循環:-1 第12～14循環:0	2
	1990-2010:0		
	2000-2010:0		

図1 Bry-Boschan法による山谷

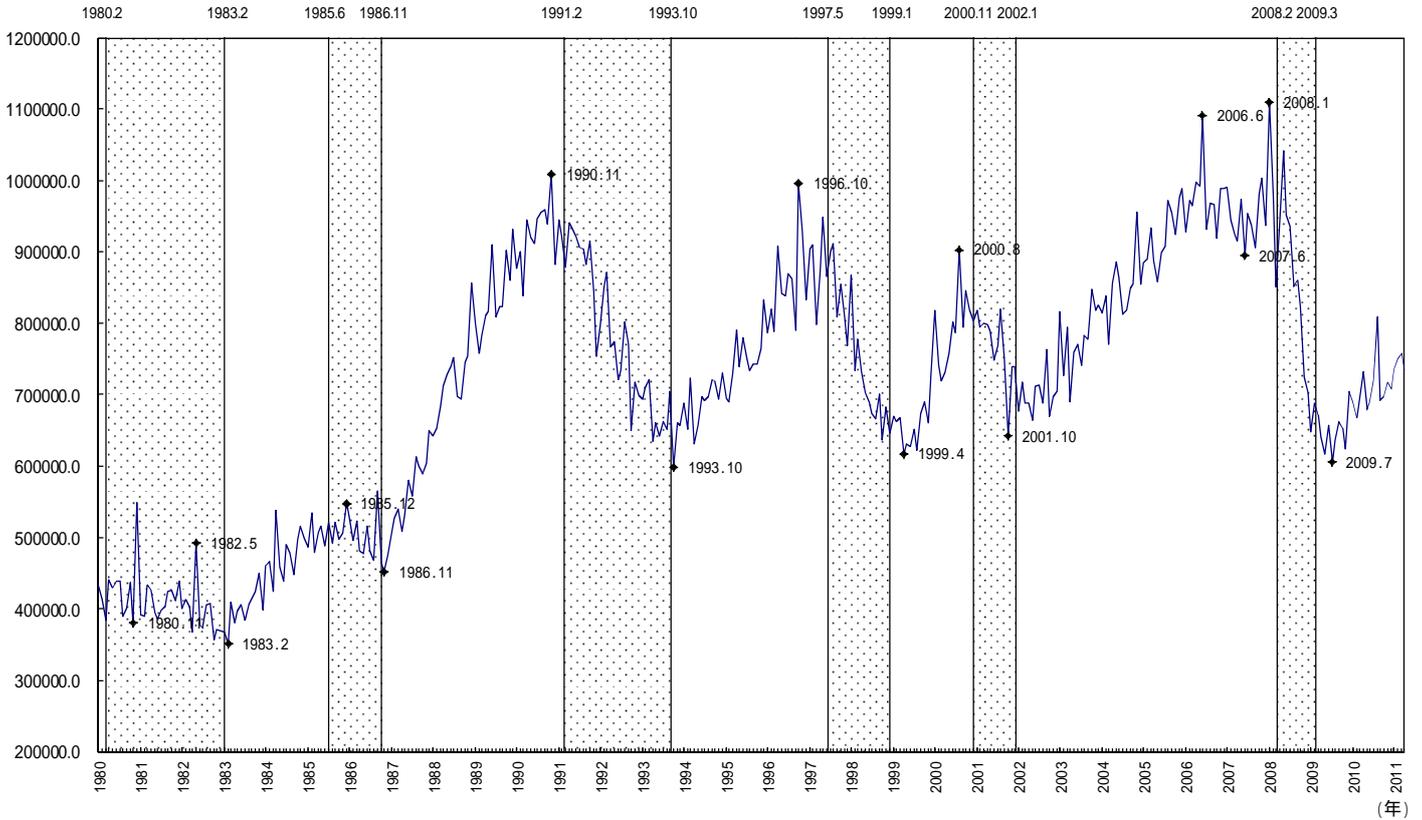


図2 パターン分析

図3 時差相関

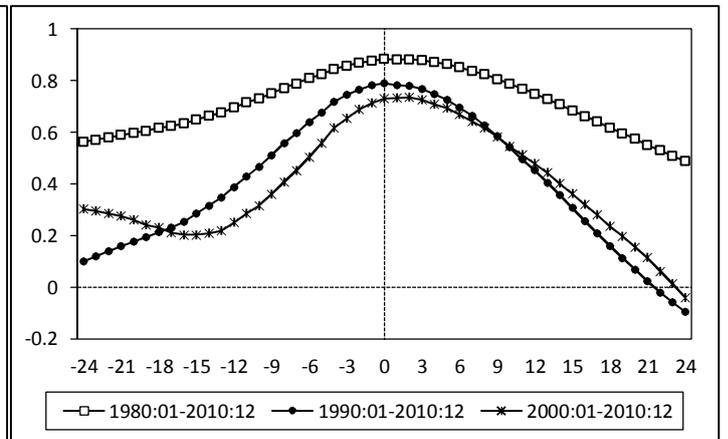
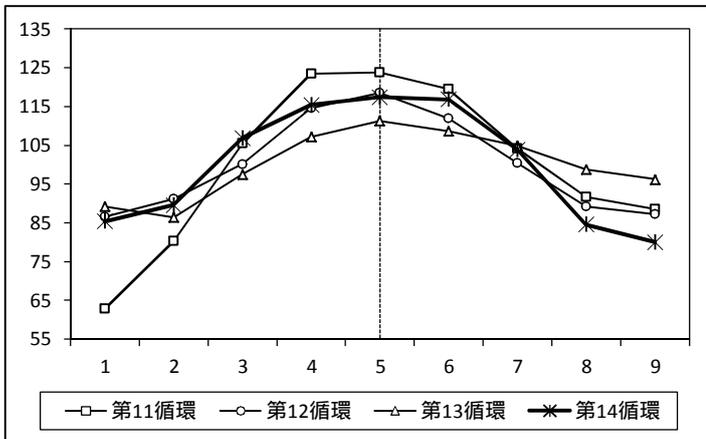


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:0	第9～14循環:+1 第12～14循環:+1	6
	1990-2010:0		
	2000-2010:+2		

図1 Bry-Boschan法による山谷

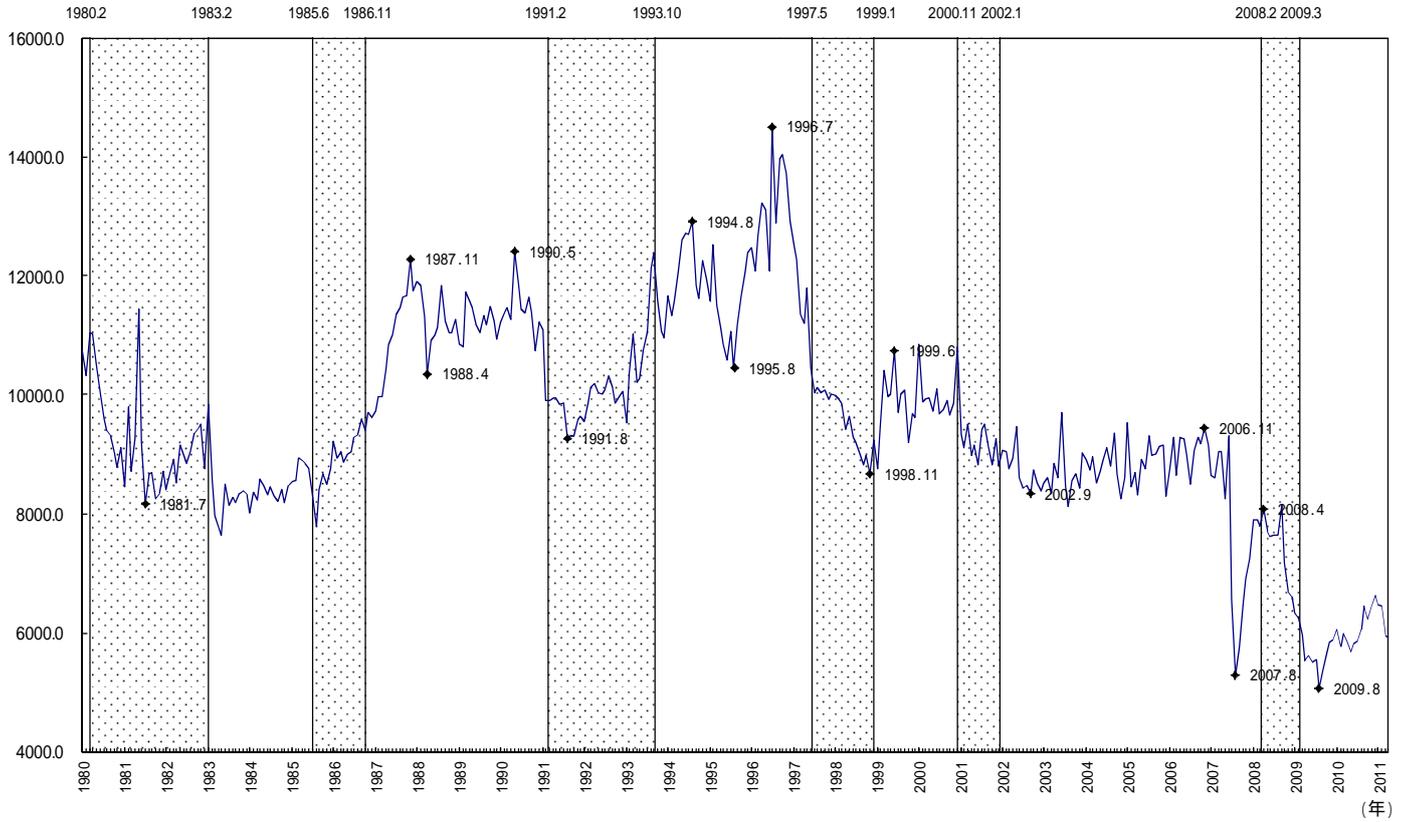


図2 パターン分析

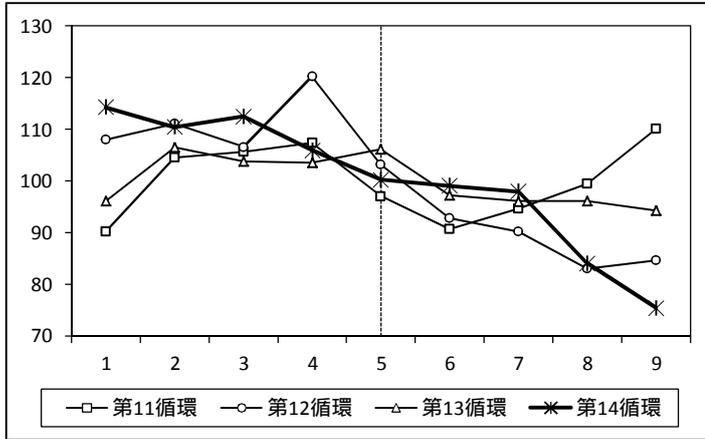


図3 時差相関

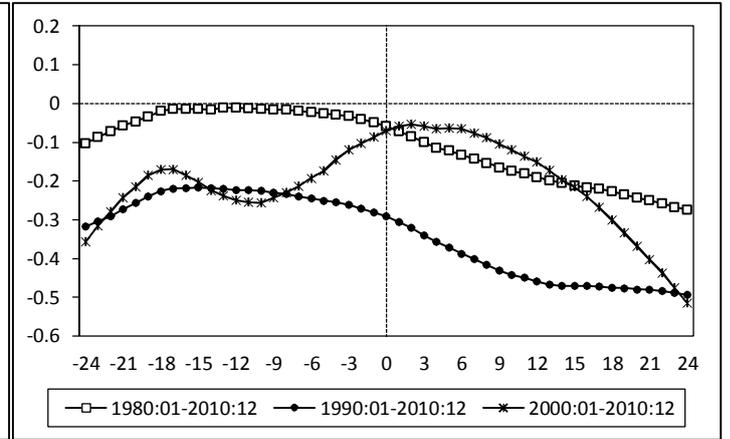


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010: -12 1990-2010: -15 2000-2010: +2	第9～14循環: +2 第12～14循環: +1	3

図1 Bry-Boschan法による山谷

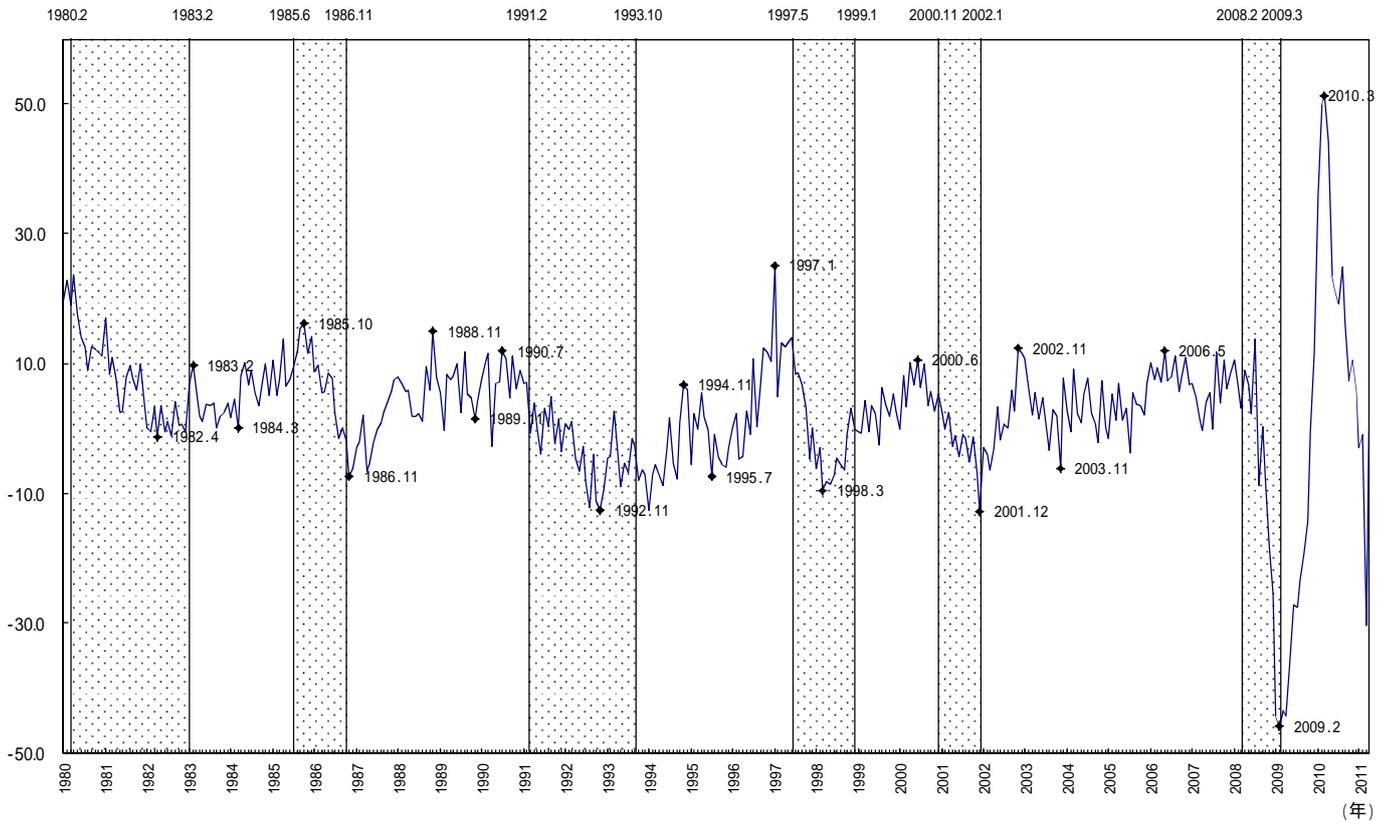


図2 パターン分析

図3 時差相関

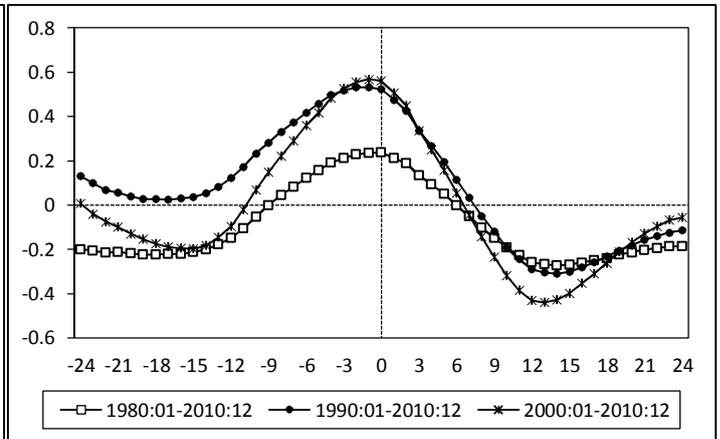
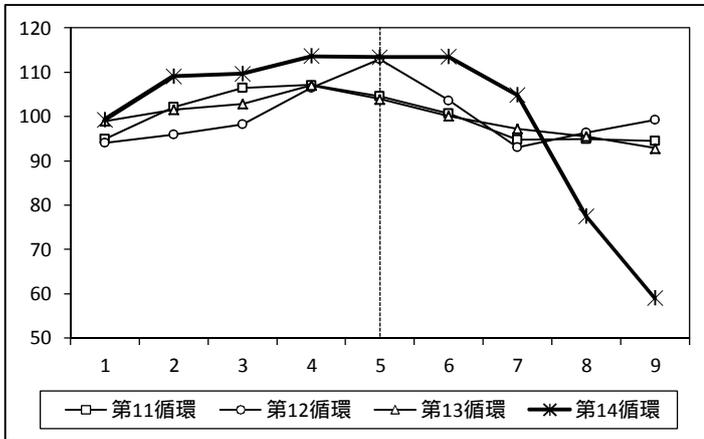


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010: 0	第9~14循環: +4 第12~14循環: +1	4
	1990-2010: -1		
	2000-2010: -1		

図1 Bry-Boschan法による山谷

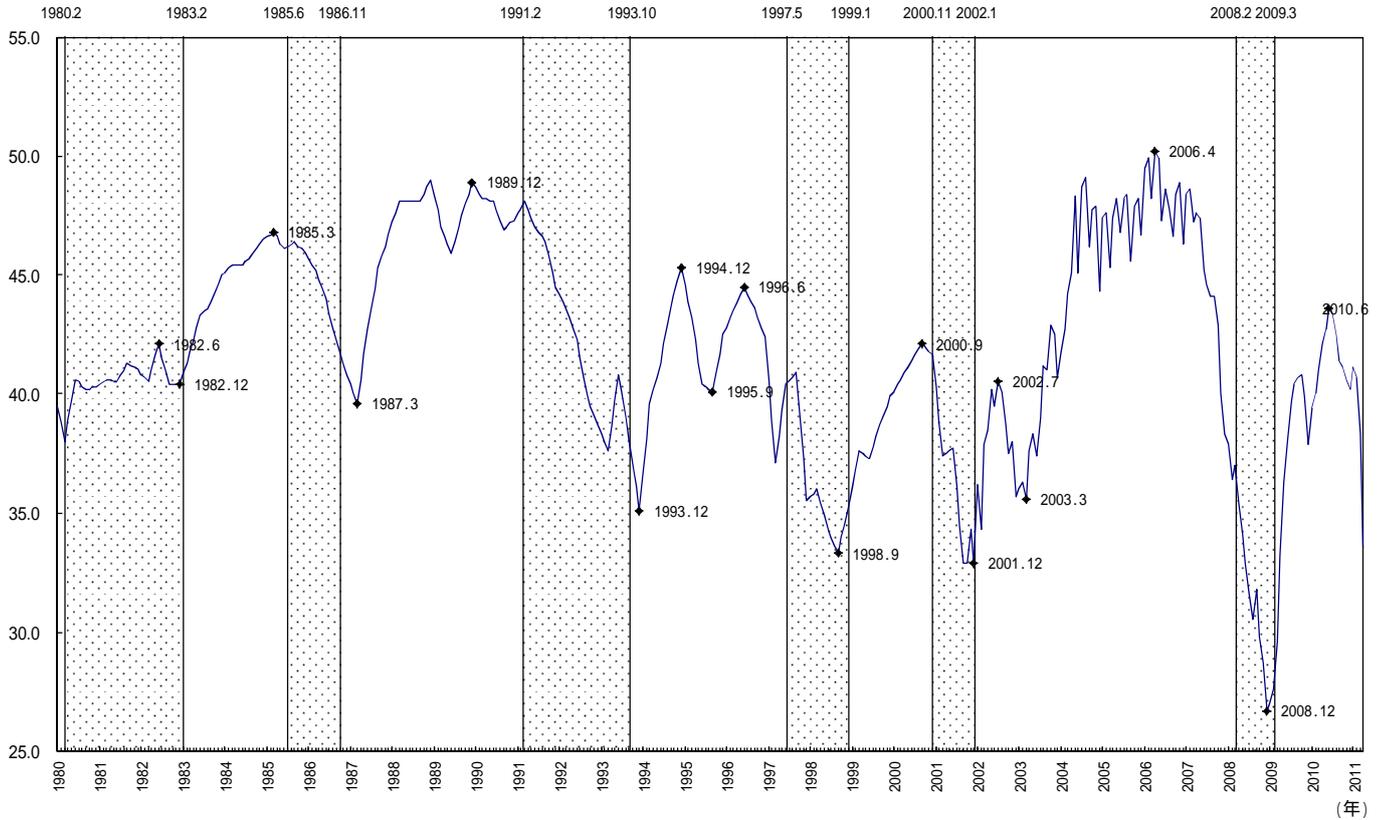


図2 パターン分析

図3 時差相関

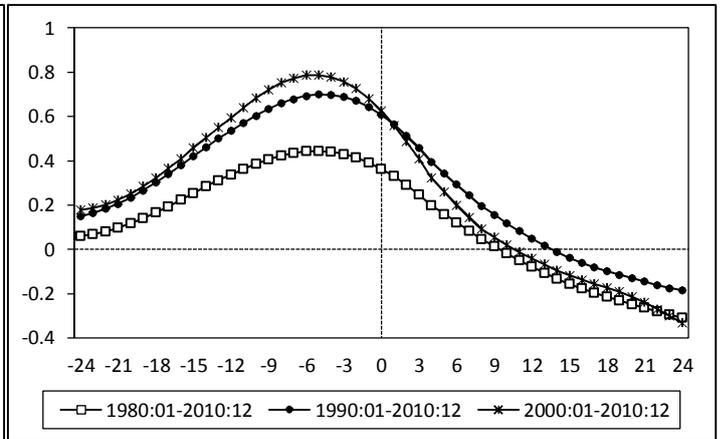
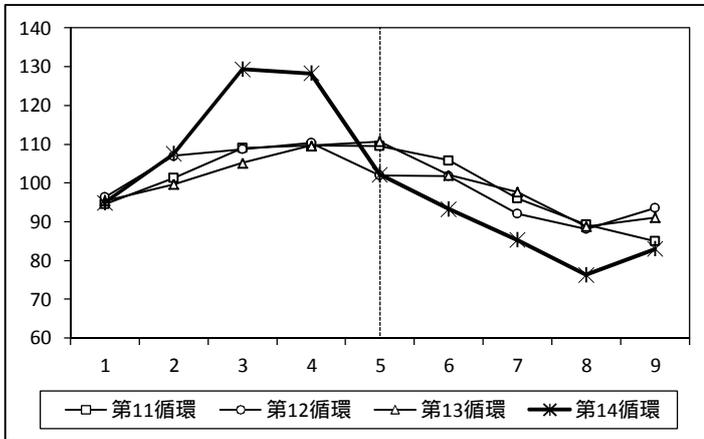


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010: -5	第9~14循環: +2 第12~14循環: +2	2
	1990-2010: -5		
	2000-2010: -5		

図1 Bry-Boschan法による山谷

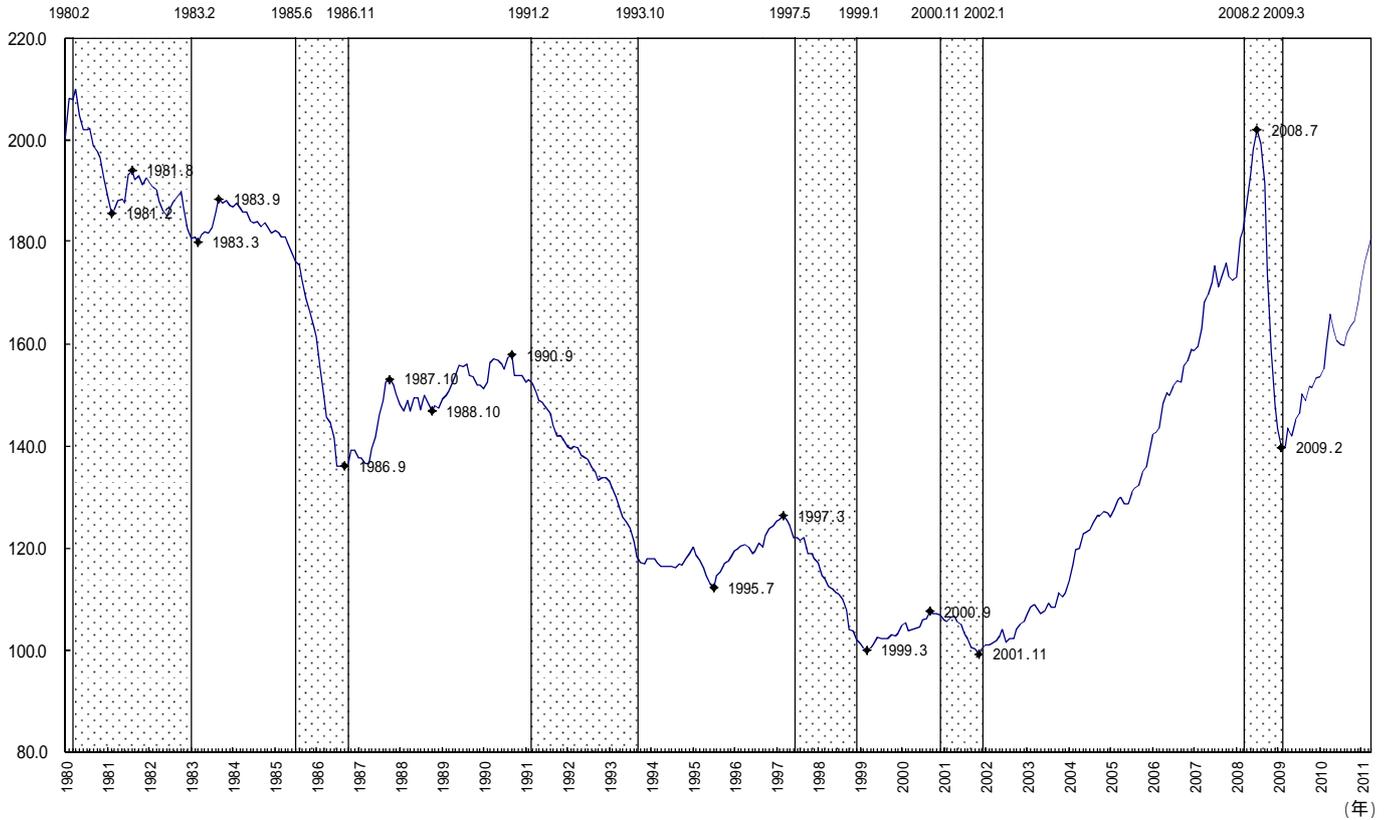


図2 パターン分析

図3 時差相関

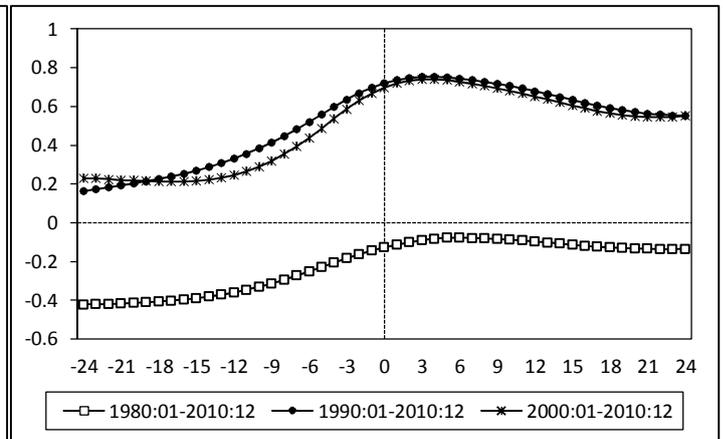
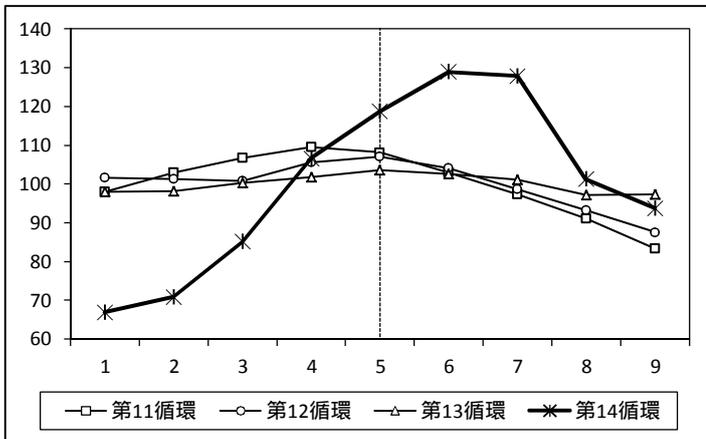


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:+5 1990-2010:+4 2000-2010:+4	第9~14循環:+1 第12~14循環:0	1

(参考) L8 日経商品指数 (42種総合) (前年同月比)

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:+1 1990-2010:-1 2000-2010:0	第9~14循環:+4 第12~14循環:+2	1

図1 Bry-Boschan法による山谷

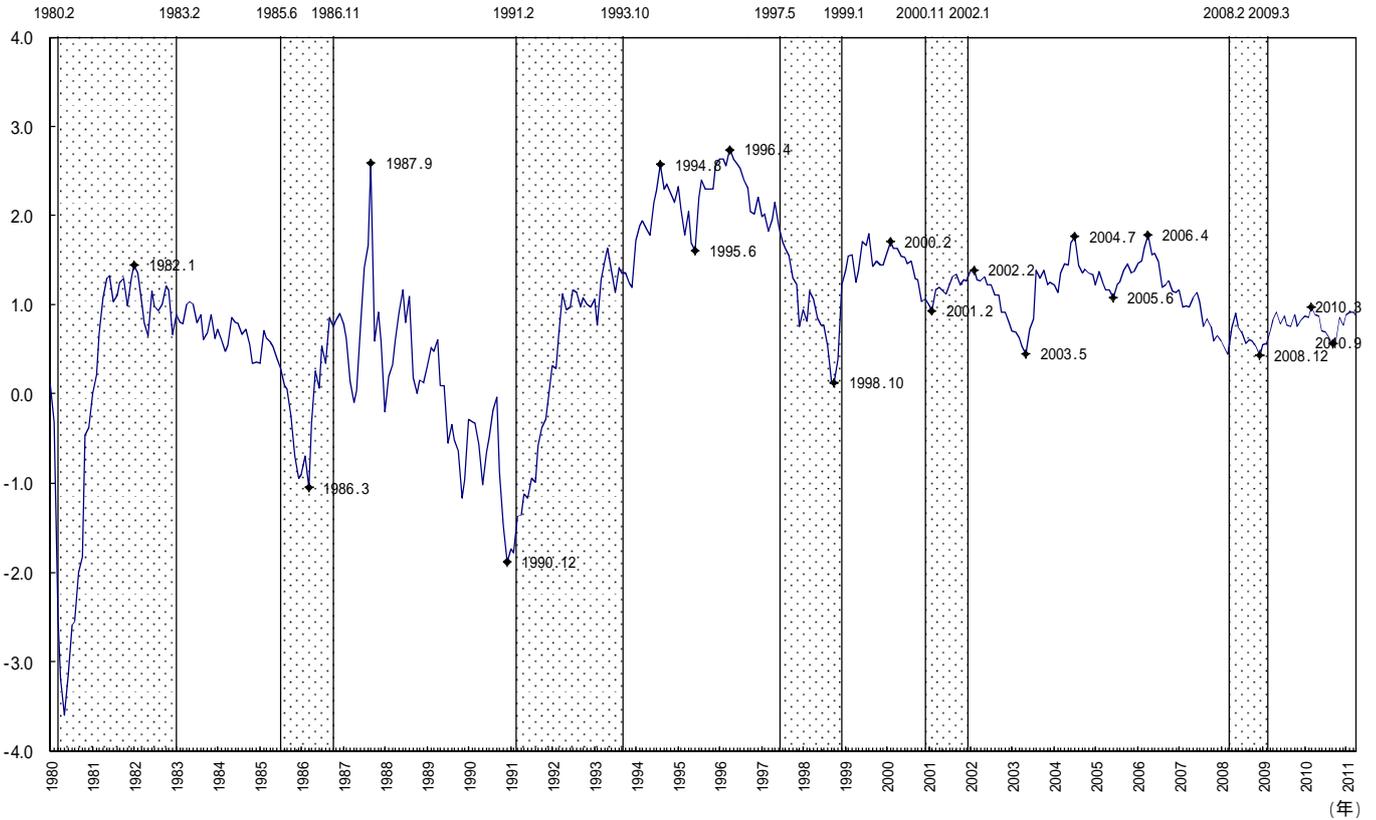


図2 パターン分析

図3 時差相関

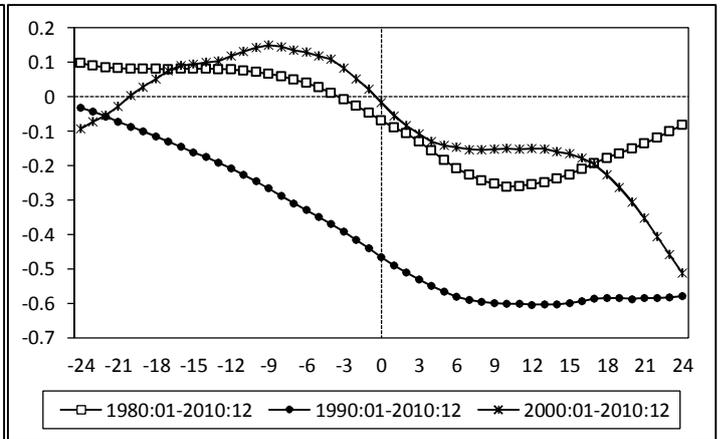
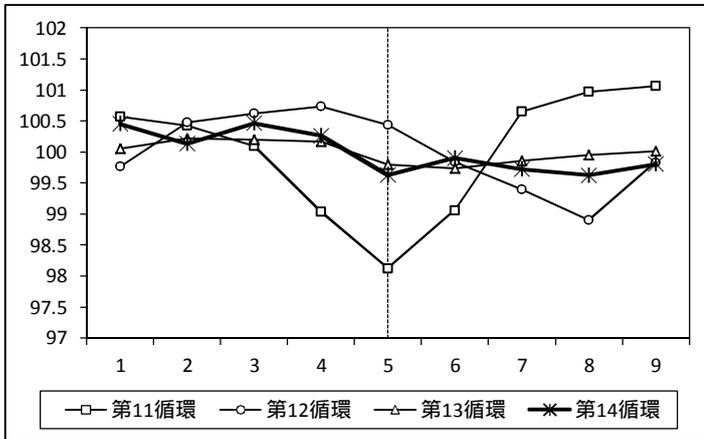


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010: ×	第9～14循環: +2 第12～14循環: +2	3
	1990-2010: ×		
	2000-2010: -9		

図1 Bry-Boschan法による山谷

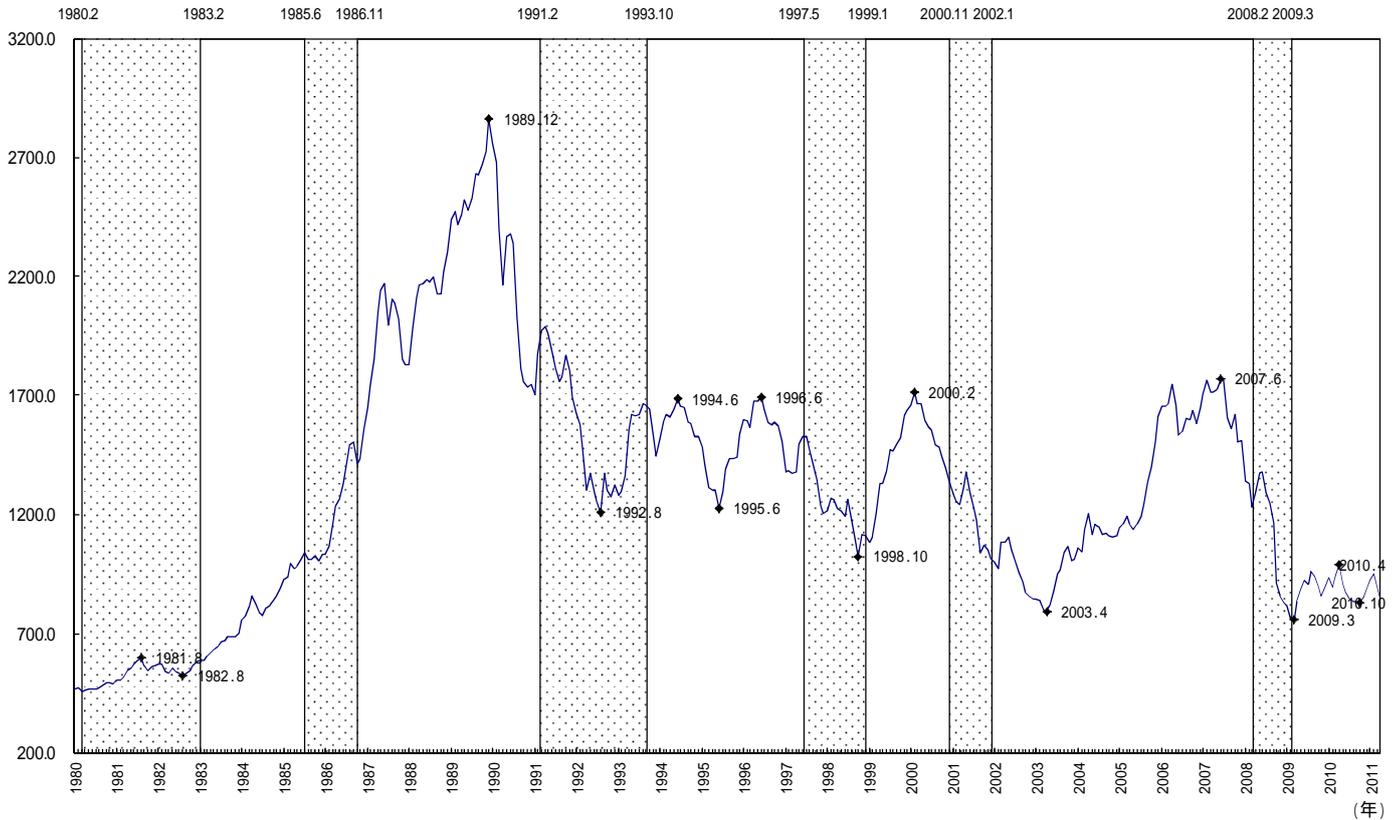


図2 パターン分析

図3 時差相関

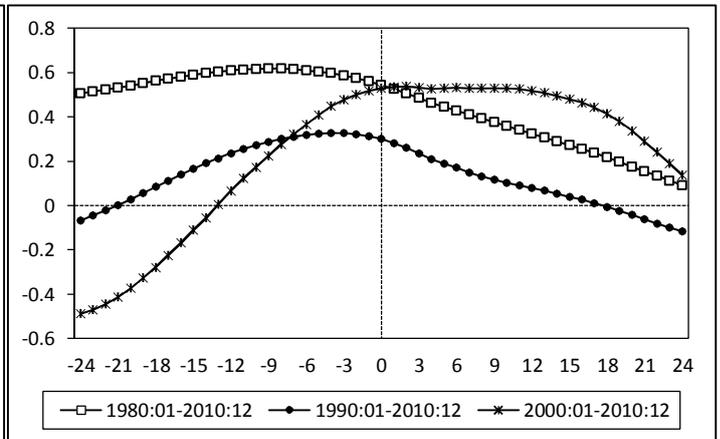
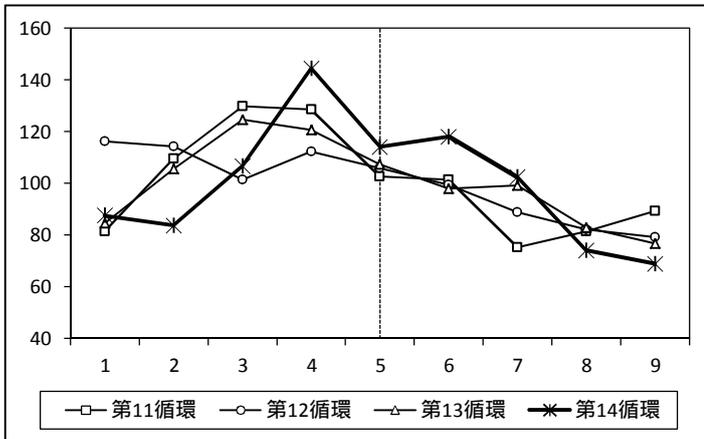


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010: -8 1990-2010: -4 2000-2010: +2	第9~14循環: 0 第12~14循環: 0	2

(参考) L10 東証株価指数 (前年同月比)

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010: -12 1990-2010: -10 2000-2010: -5	第9~14循環: +5 第12~14循環: +2	2

図1 Bry-Boschan法による山谷

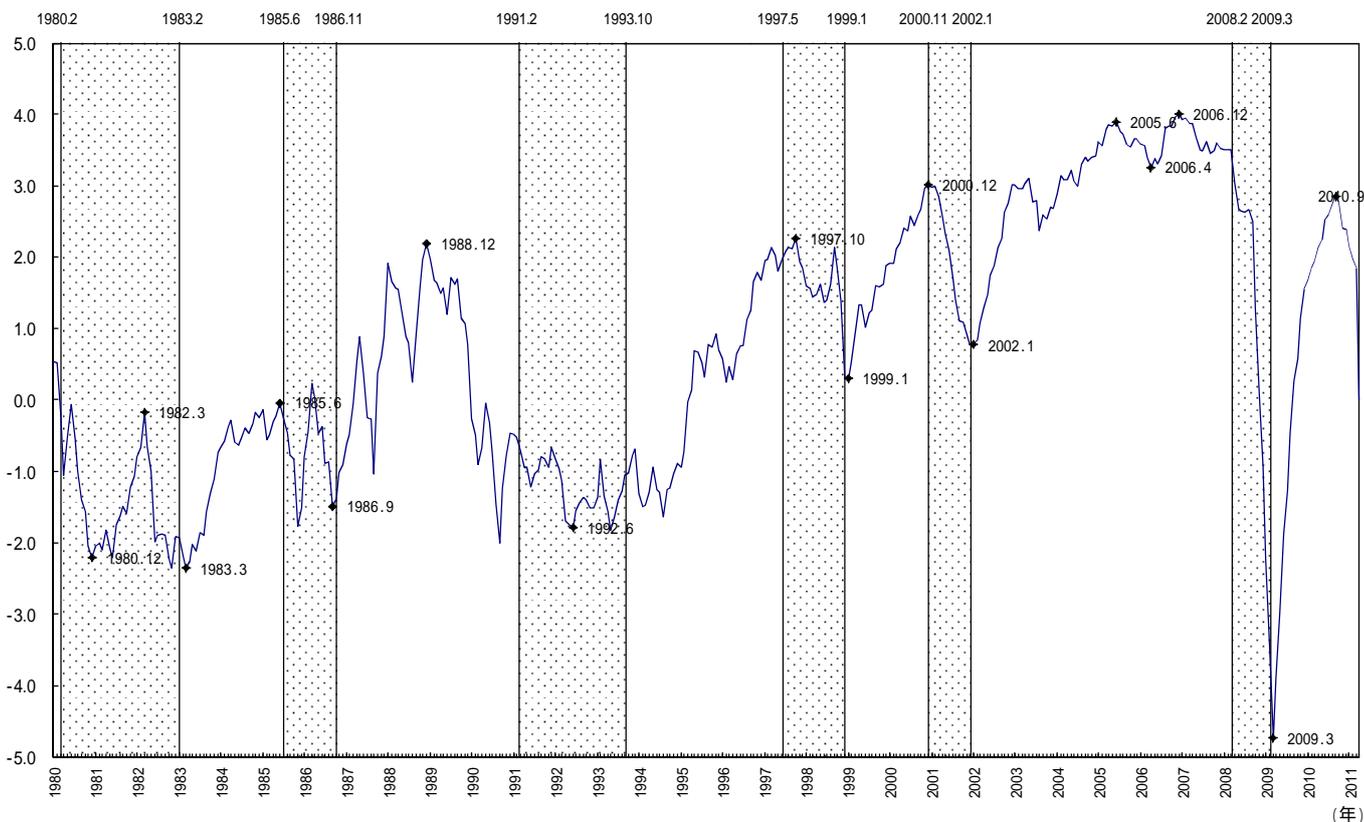


図2 パターン分析

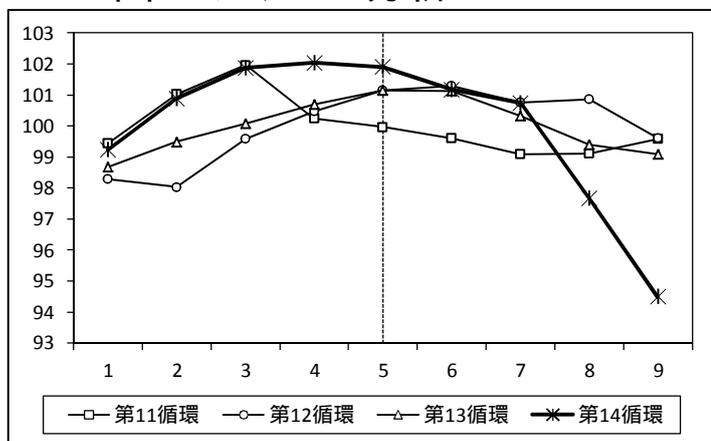


図3 時差相関

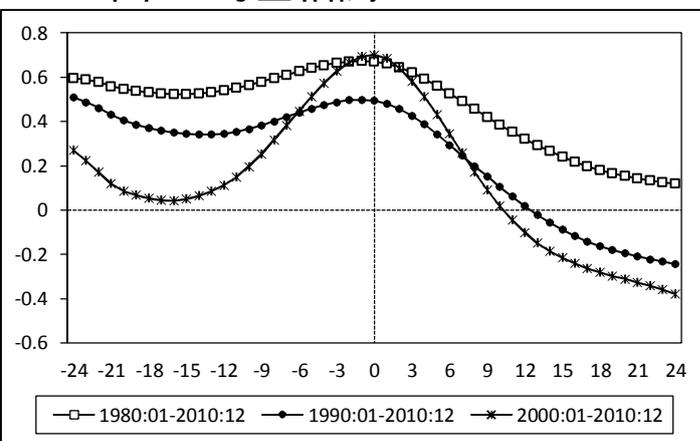


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010: -1	第9～14循環: +1 第12～14循環: +1	2
	1990-2010: ×		
	2000-2010: 0		

図1 Bry-Boschan法による山谷

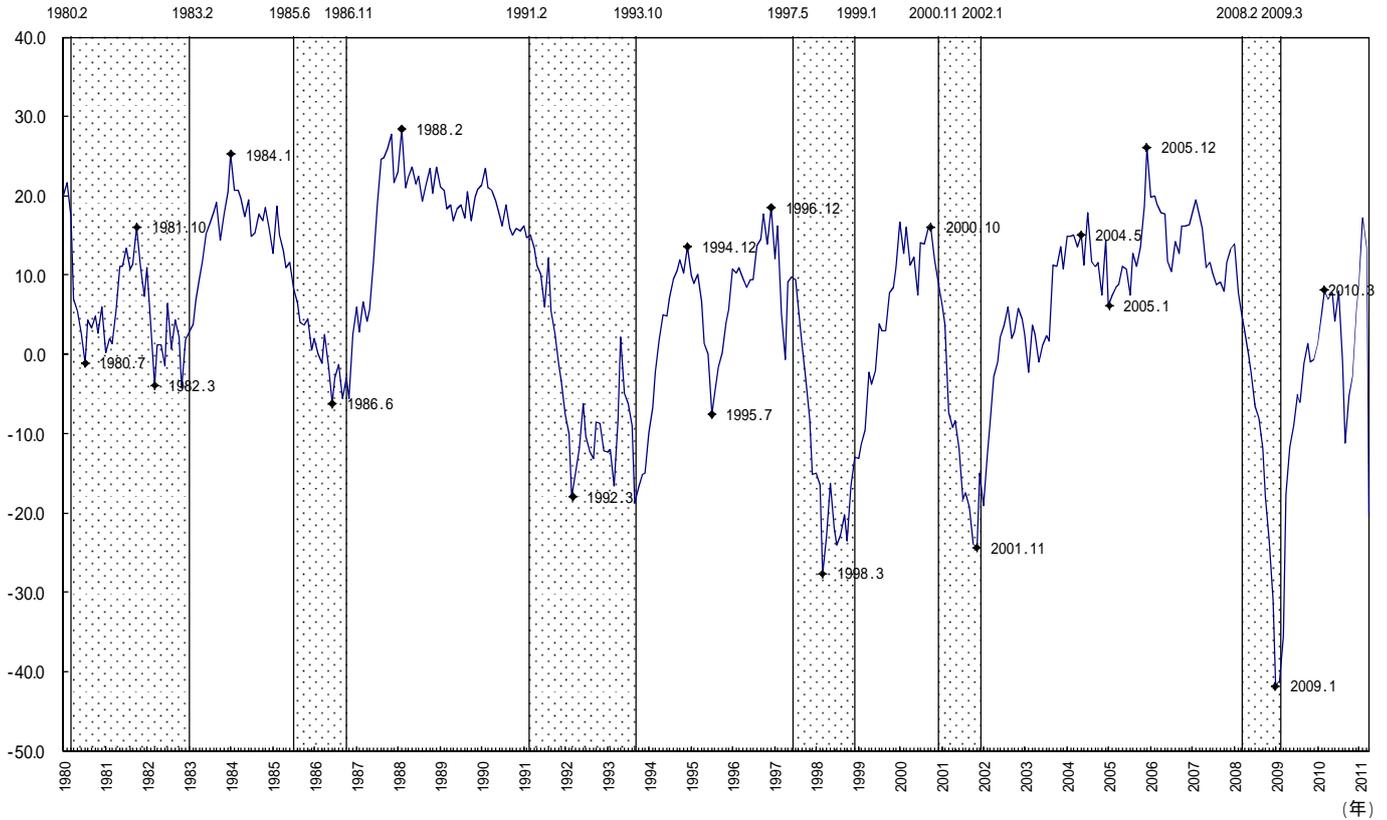


図2 パターン分析

図3 時差相関

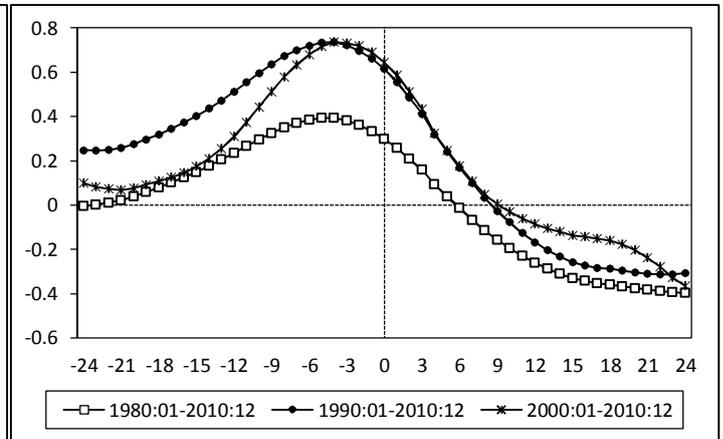
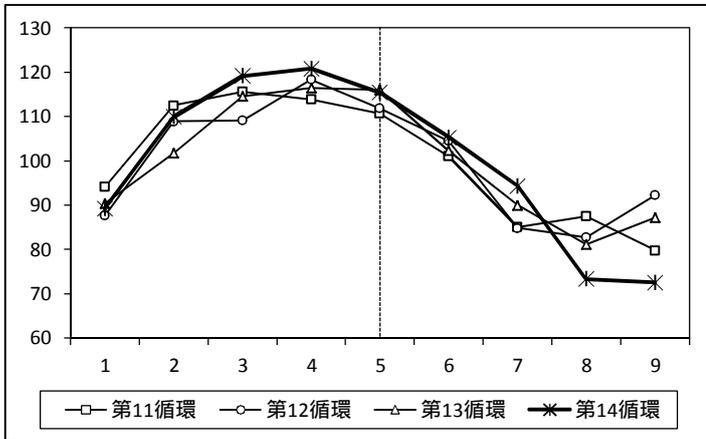


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010: -5	第9~14循環: +2 第12~14循環: +2	2
	1990-2010: -4		
	2000-2010: -4		

図1 Bry-Boschan法による山谷

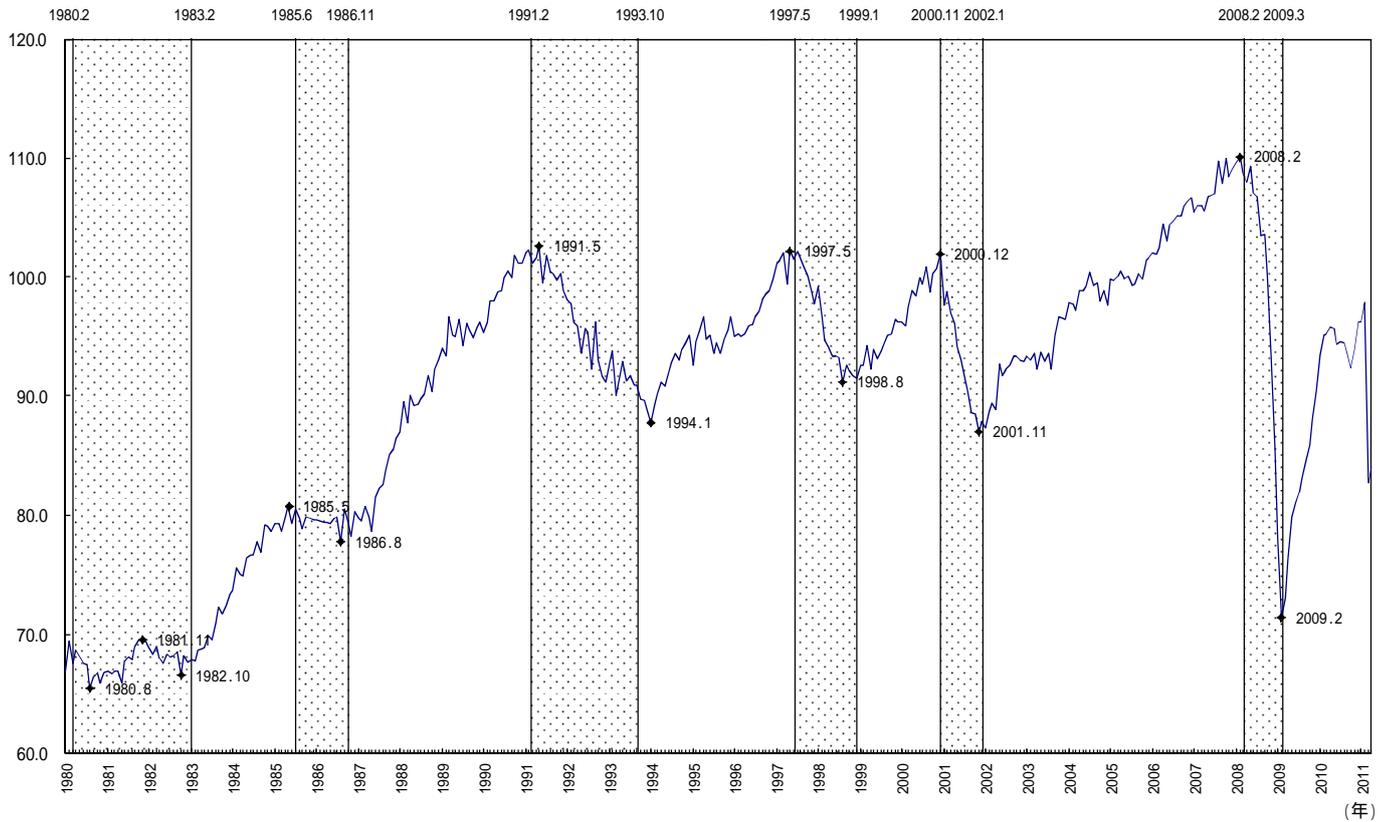


図2 パターン分析

図3 時差相関

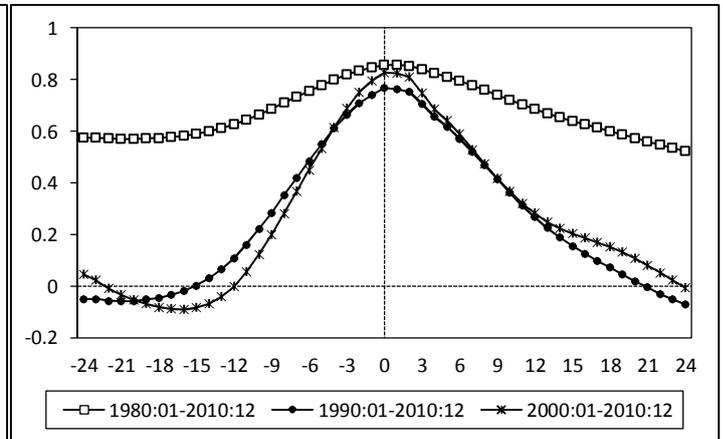
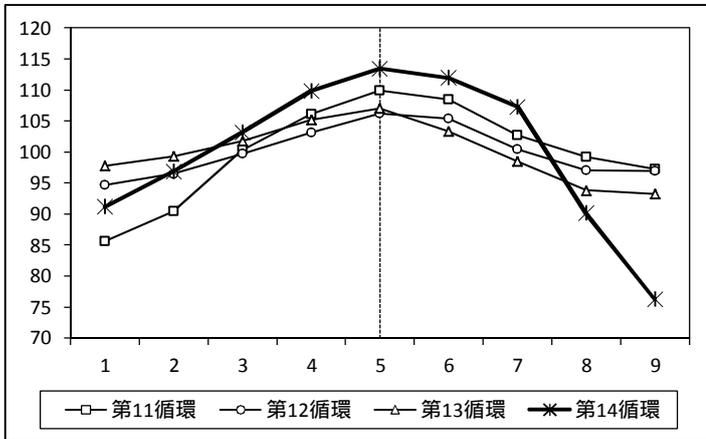


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:0	第9～14循環:0 第12～14循環:0	2
	1990-2010:0		
	2000-2010:0		

図1 Bry-Boschan法による山谷

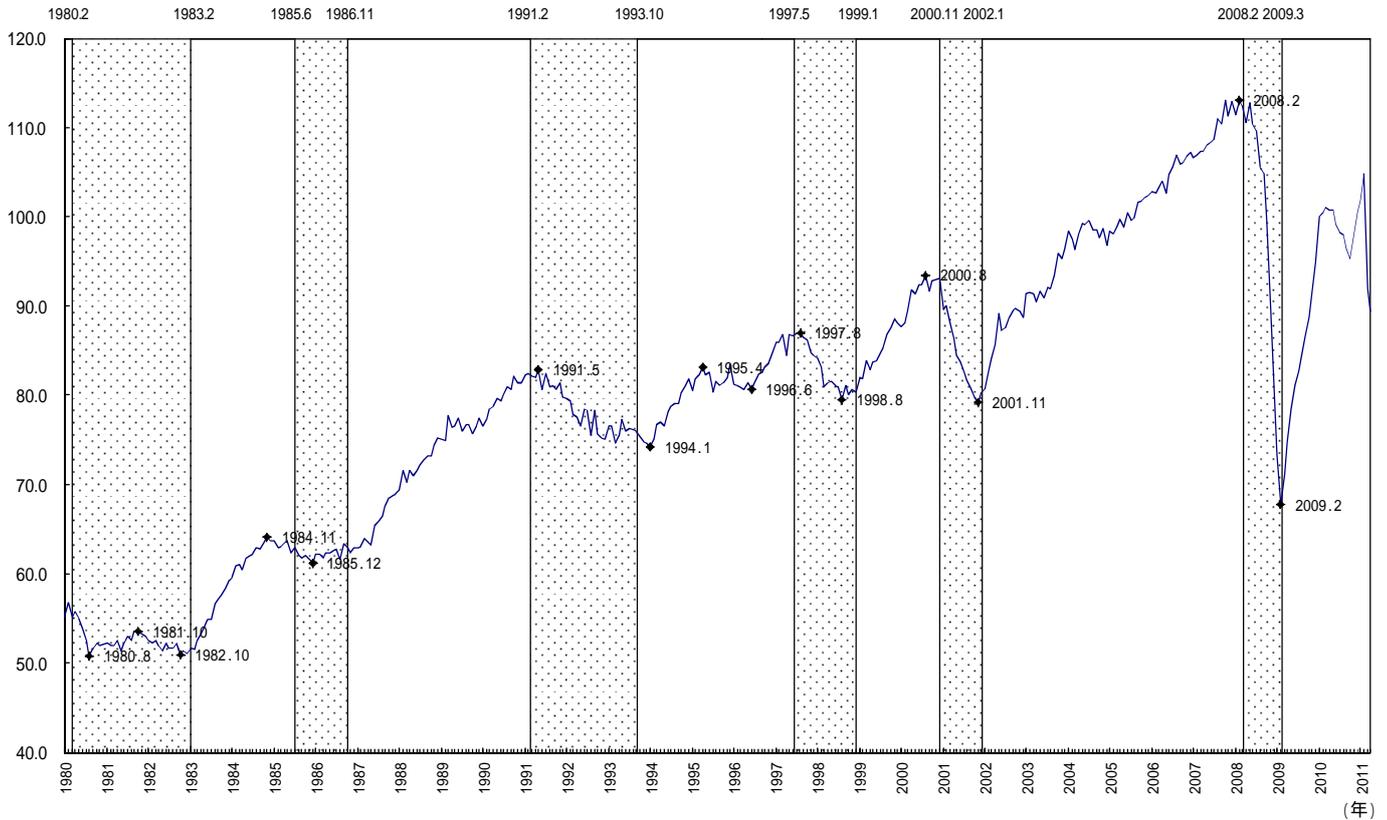


図2 パターン分析

図3 時差相関

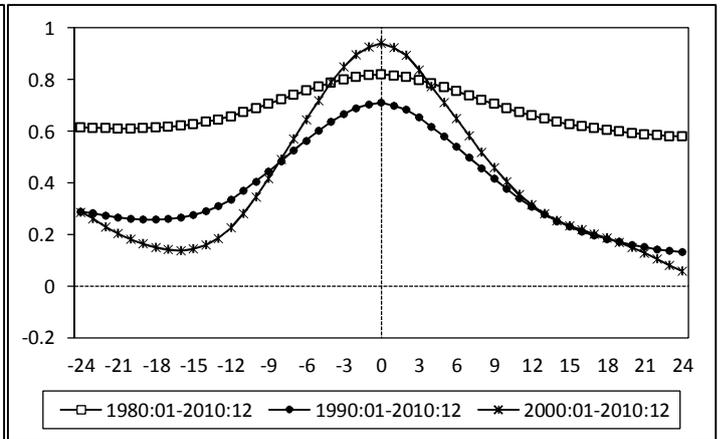
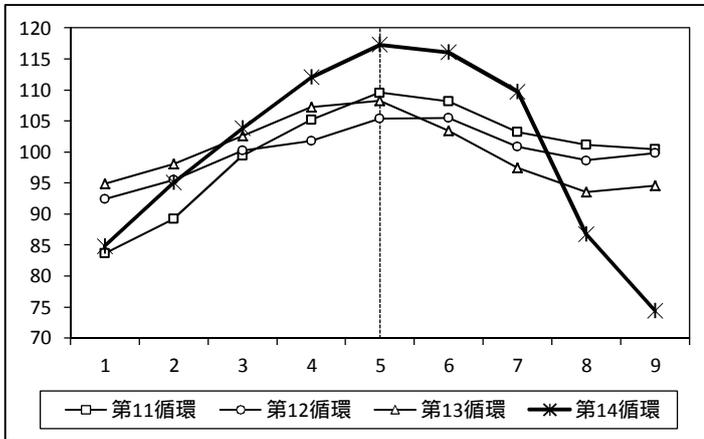


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:0	第9～14循環:+1 第12～14循環:+1	2
	1990-2010:0		
	2000-2010:0		

図1 Bry-Boschan法による山谷

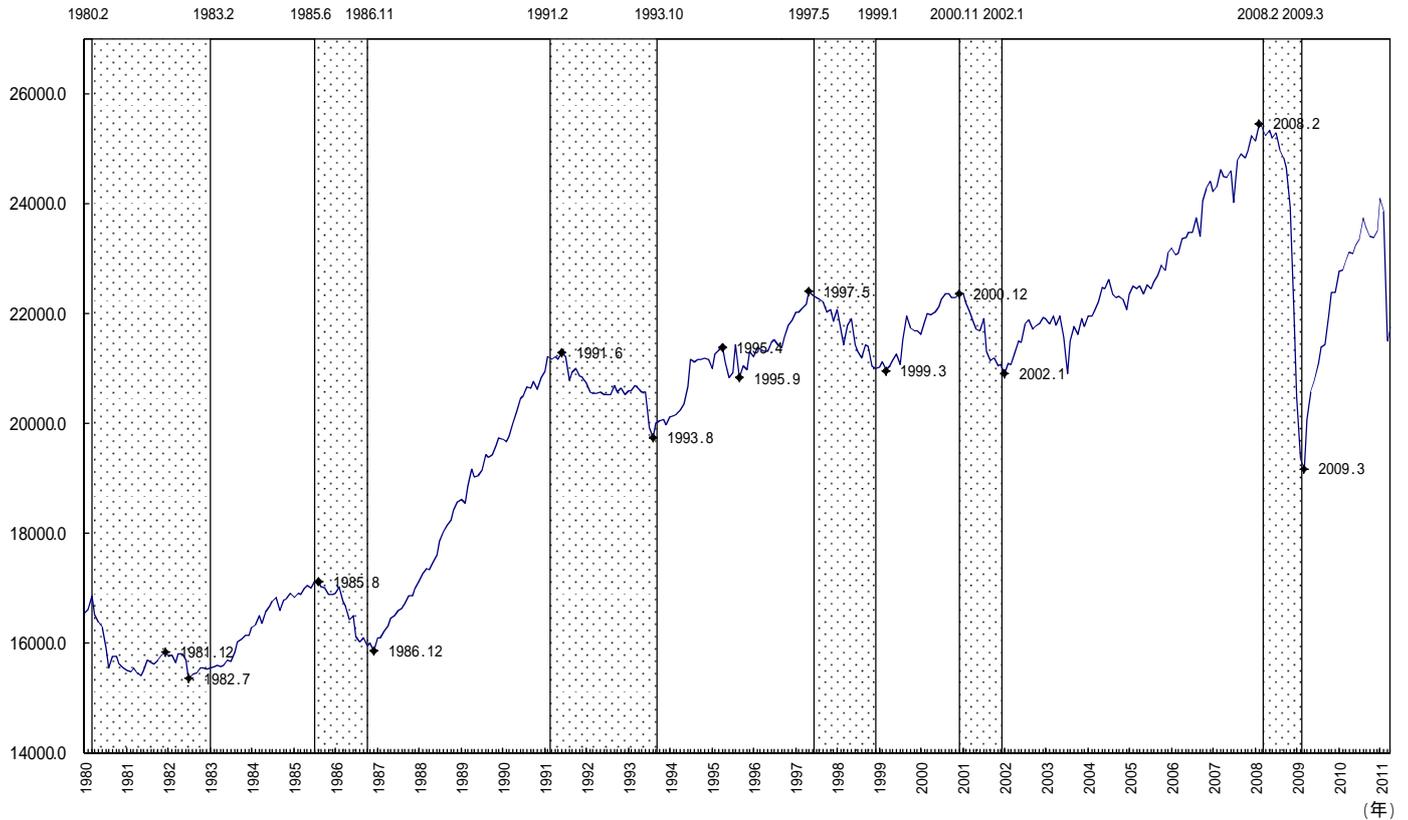


図2 パターン分析

図3 時差相関

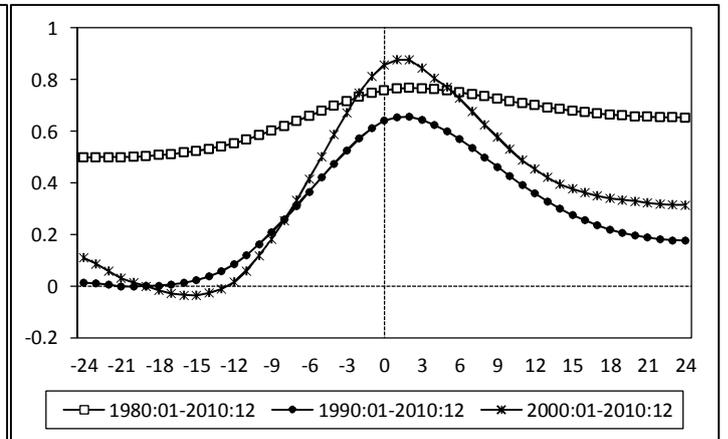
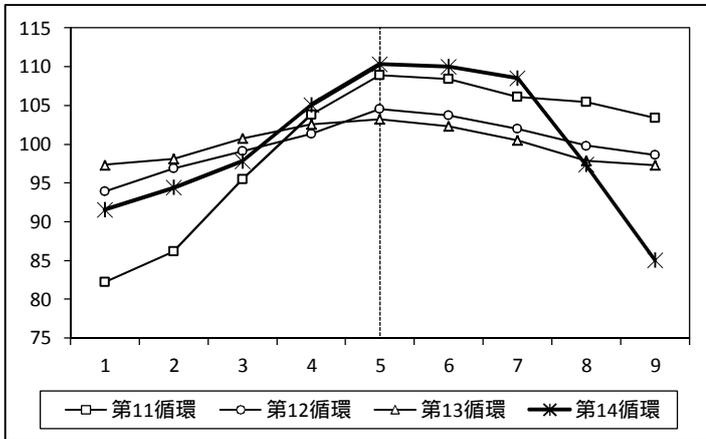


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:+2	第9~14循環:+1 第12~14循環:+1	2
	1990-2010:+2		
	2000-2010:+2		

図1 Bry-Boschan法による山谷

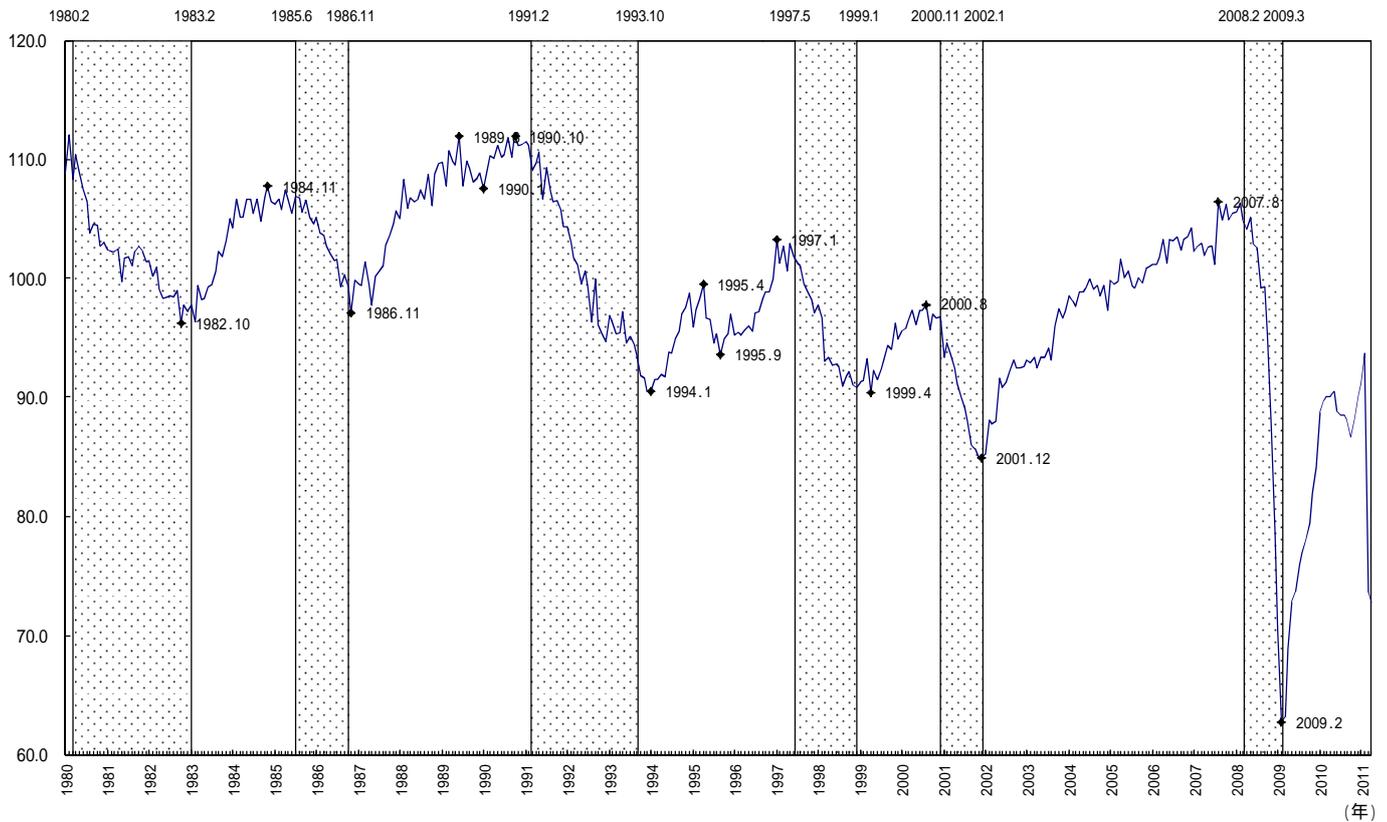


図2 パターン分析

図3 時差相関

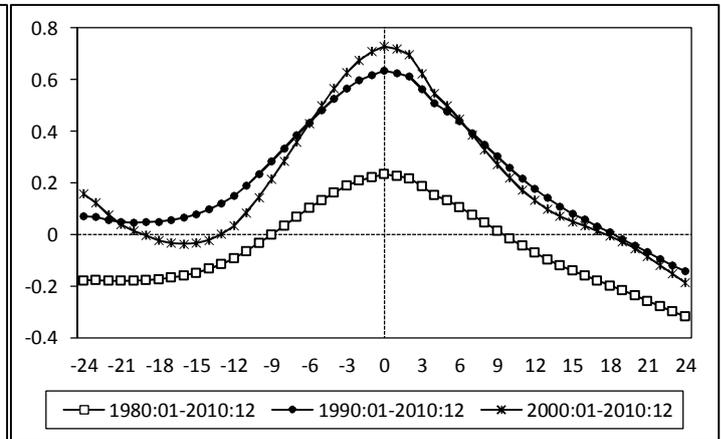
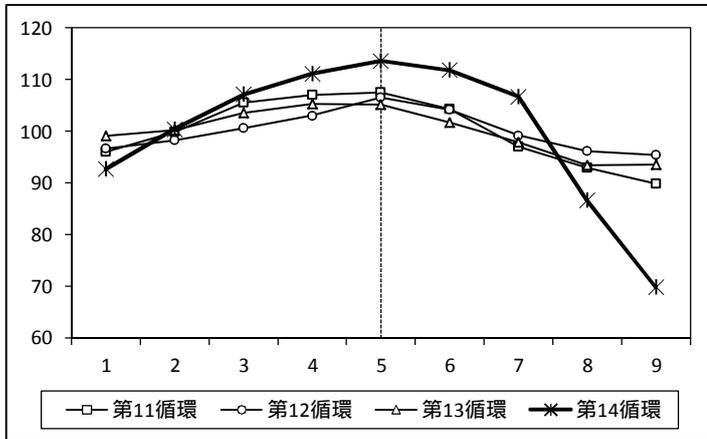


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:0	第9～14循環:+2 第12～14循環:+1	2
	1990-2010:0		
	2000-2010:0		

図1 Bry-Boschan法による山谷

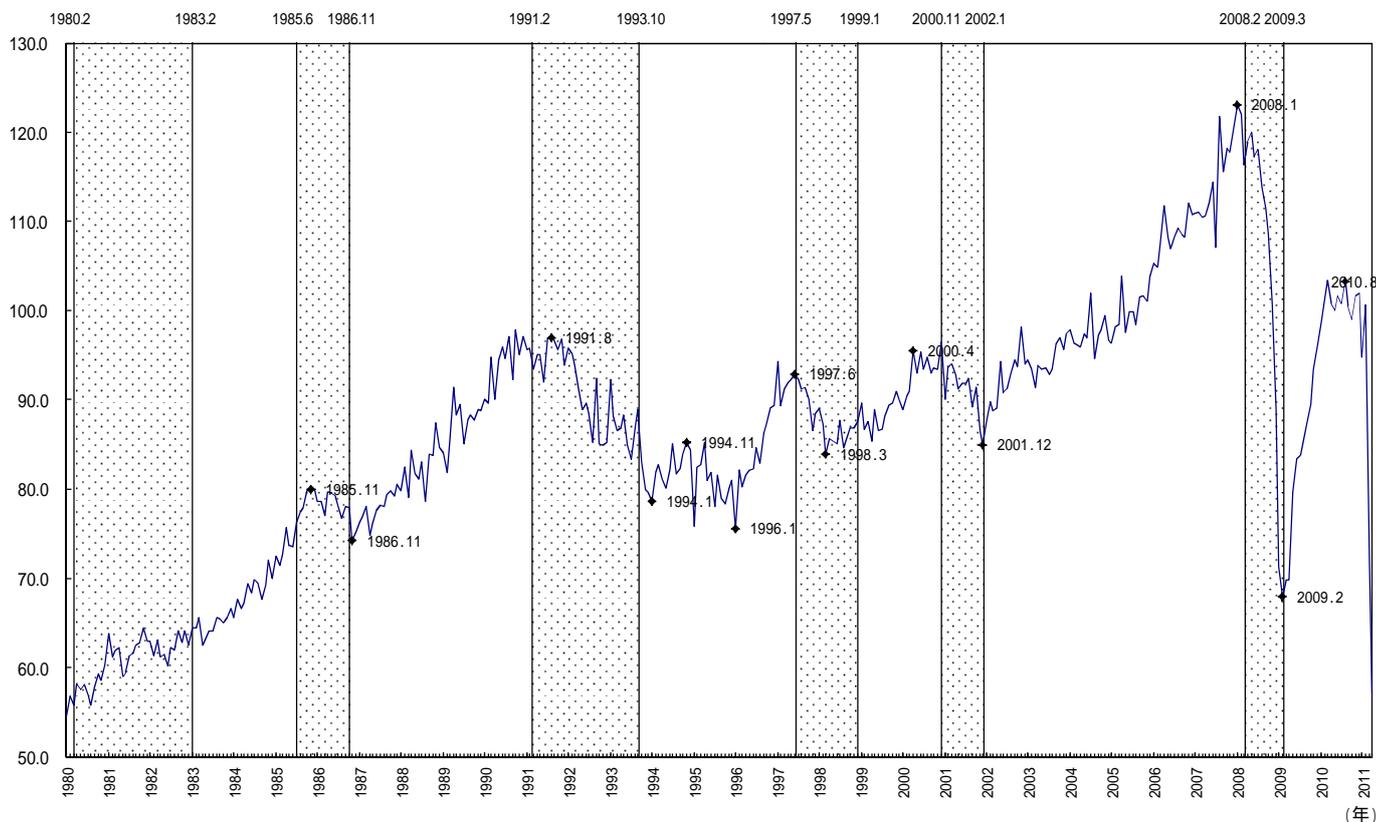


図2 パターン分析

図3 時差相関

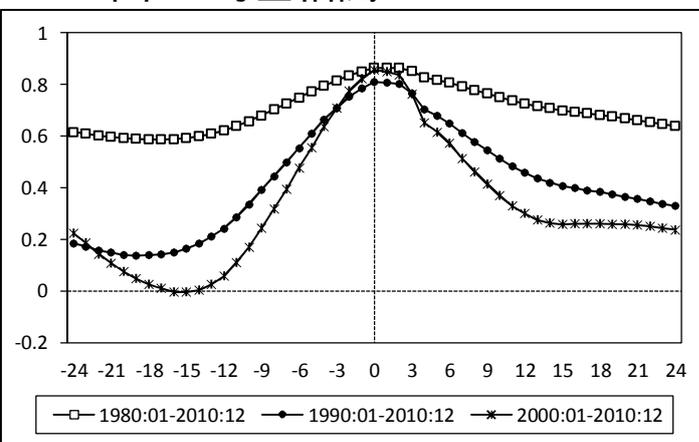
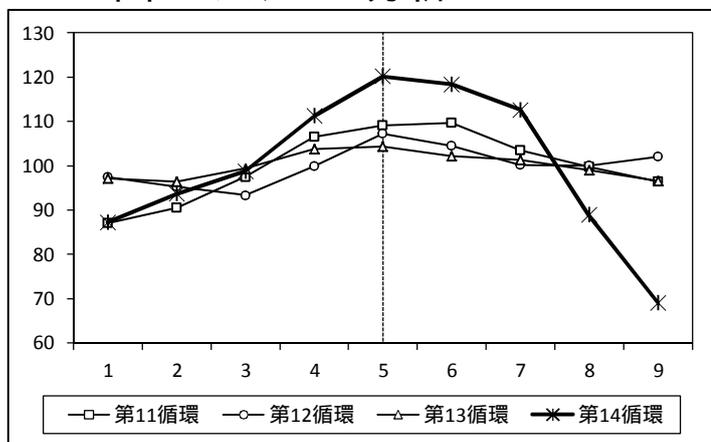


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:+1 1990-2010:0 2000-2010:0	第9～14循環:0 第12～14循環:+1	4

(参考) L6 耐久消費財出荷指数(前年同月比)

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:0 1990-2010:-1 2000-2010:-1	第9～14循環:+4 第12～14循環:+1	4

図1 Bry-Boschan法による山谷

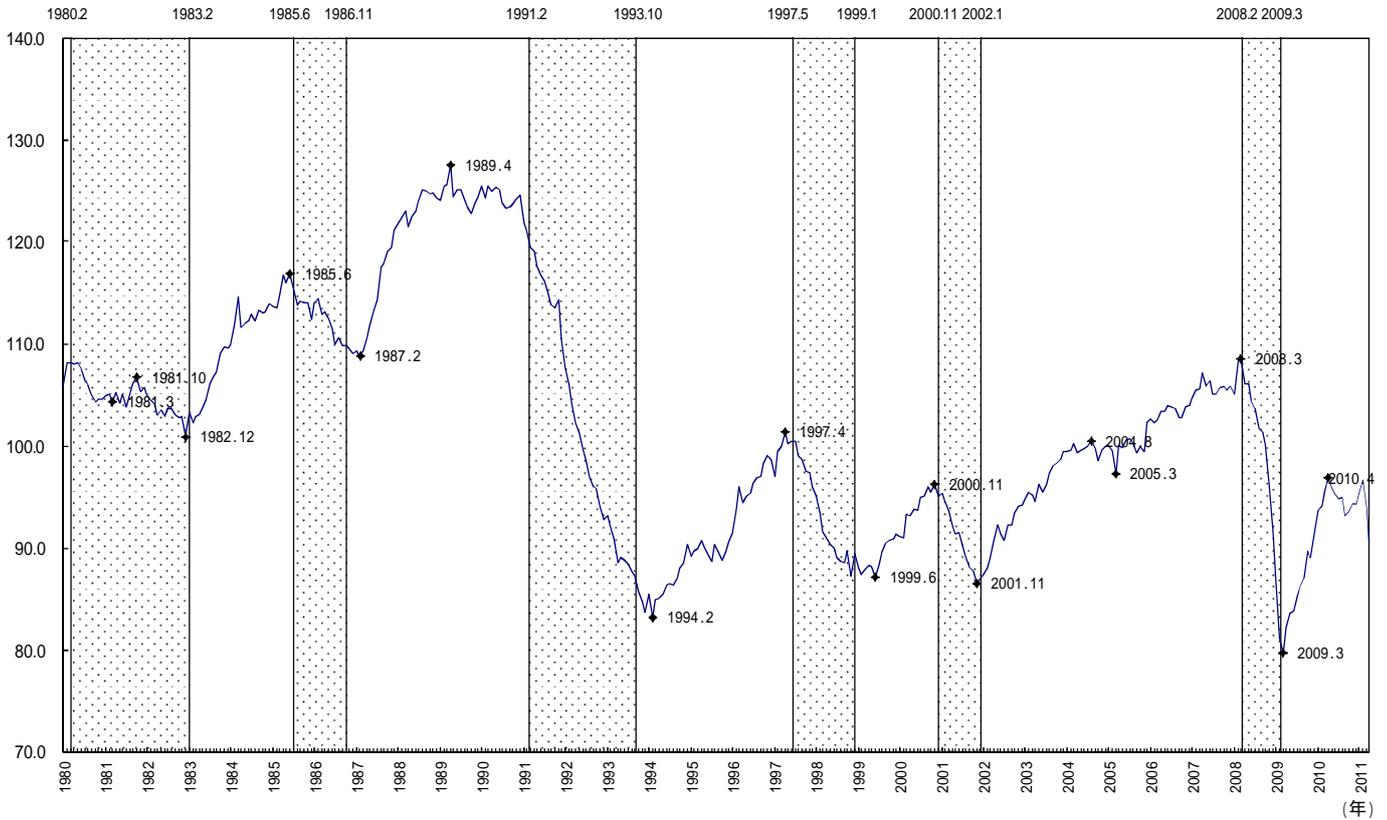


図2 パターン分析

図3 時差相関

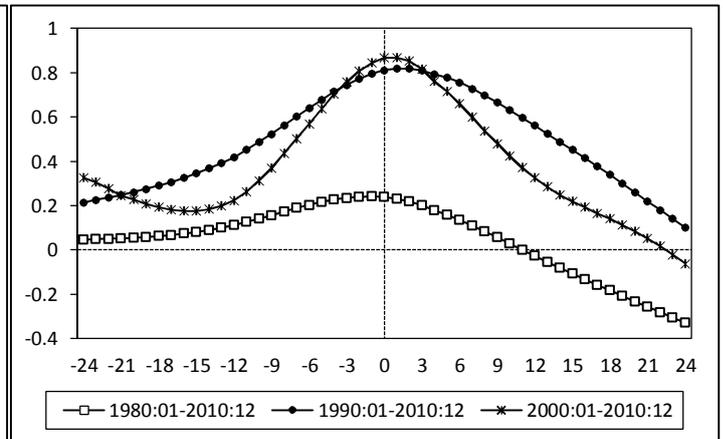
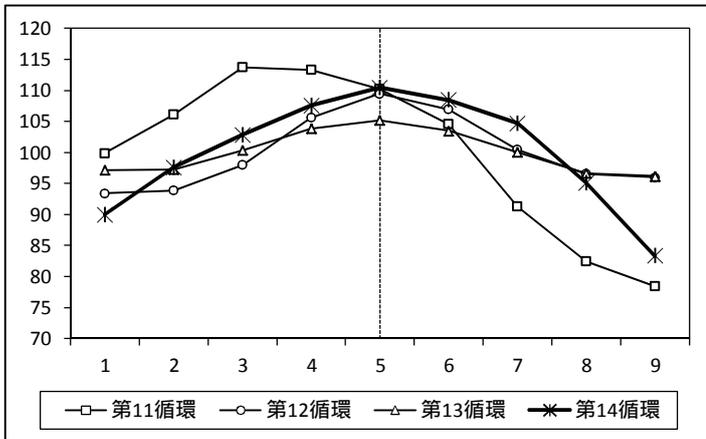


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010: -1	第9～14循環: +1 第12～14循環: +1	2
	1990-2010: +1		
	2000-2010: +1		

(参考) C5 所定外労働時間指数 (製造業)

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010: -1	第9～14循環: +1 第12～14循環: +1	1
	1990-2010: 0		
	2000-2010: 0		

図1 Bry-Boschan法による山谷

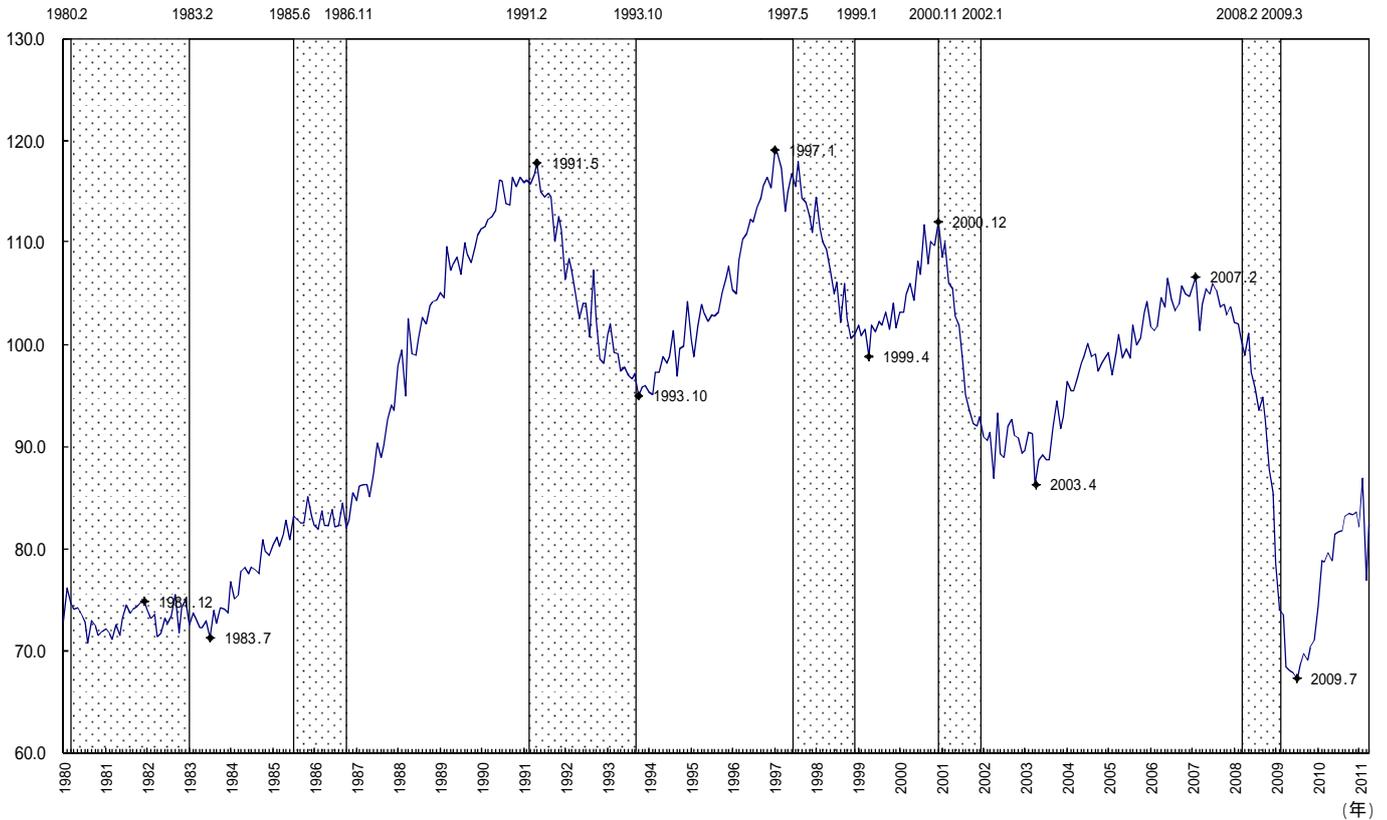


図2 パターン分析

図3 時差相関

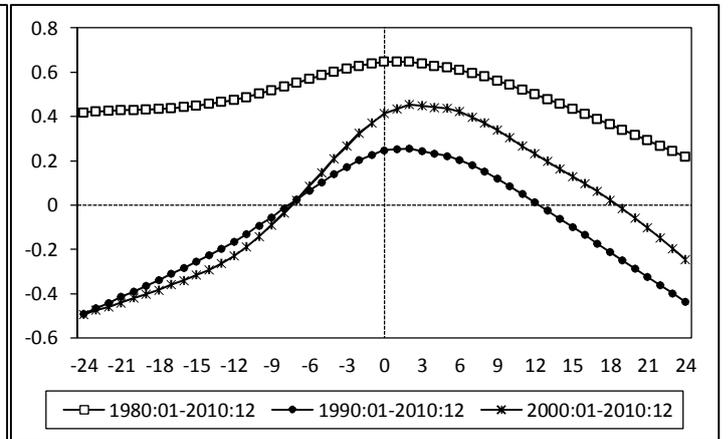
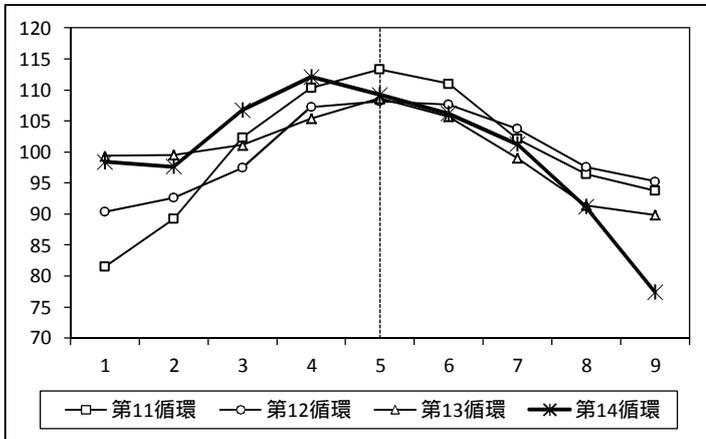


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:0	第9～14循環:-1 第12～14循環:0	3
	1990-2010:+2		
	2000-2010:+2		

図1 Bry-Boschan法による山谷

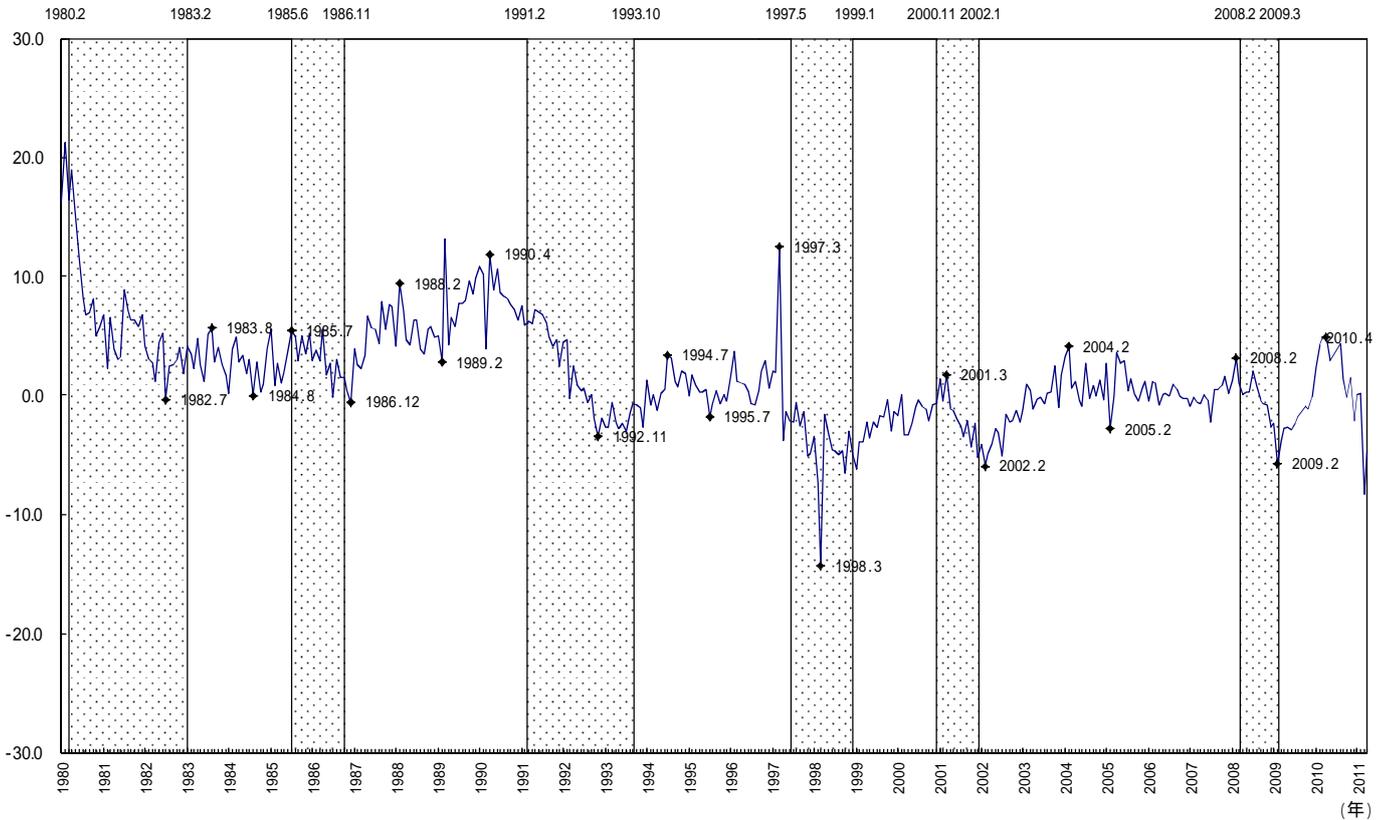


図2 パターン分析

図3 時差相関

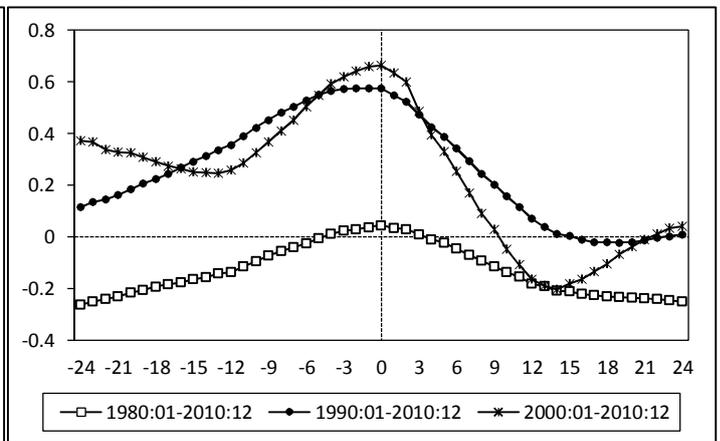
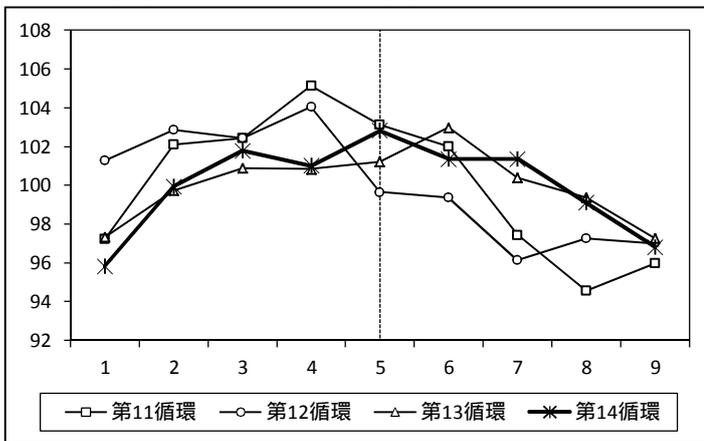


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:0	第9～14循環:+4 第12～14循環:+2	5
	1990-2010:-2		
	2000-2010:0		

図1 Bry-Boschan法による山谷

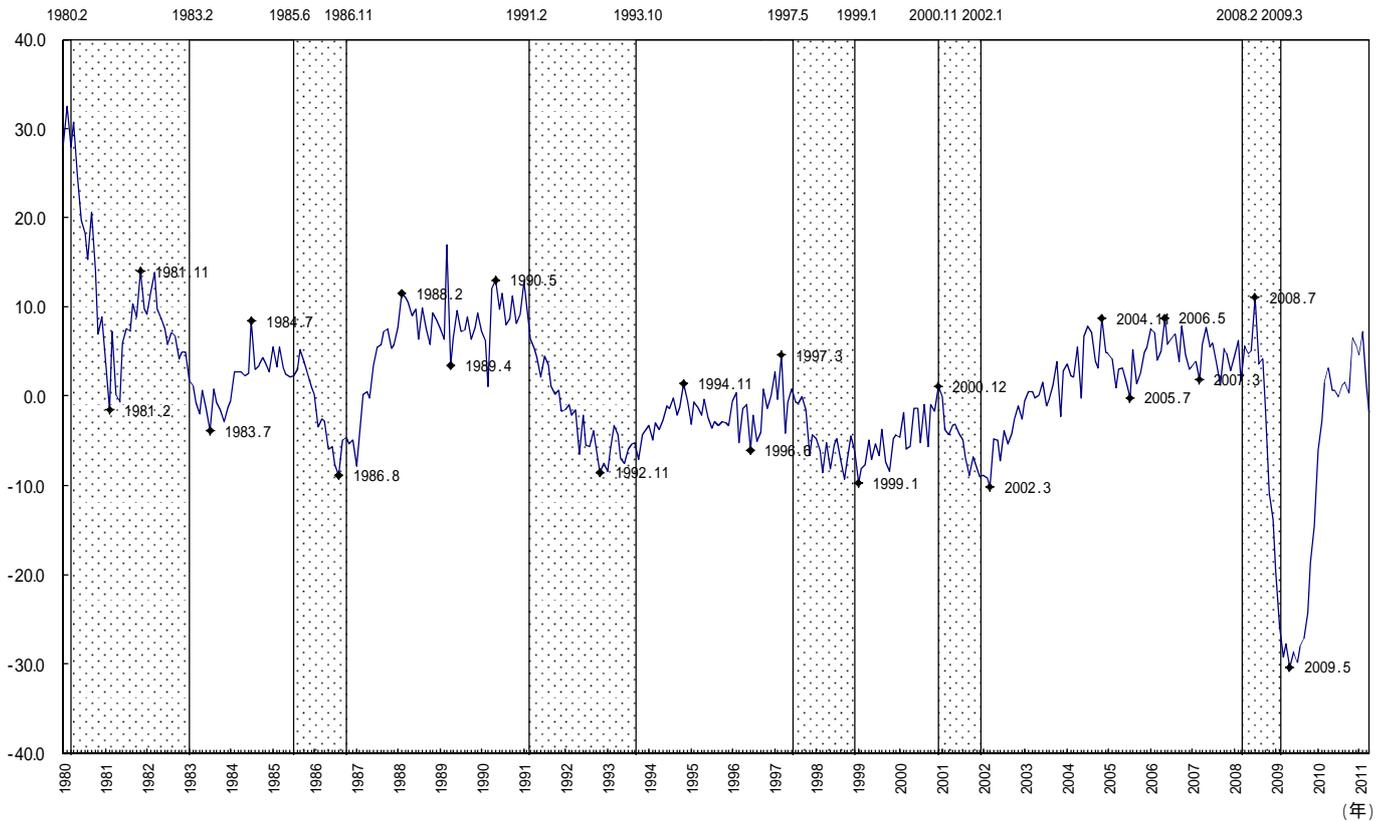


図2 パターン分析

図3 時差相関

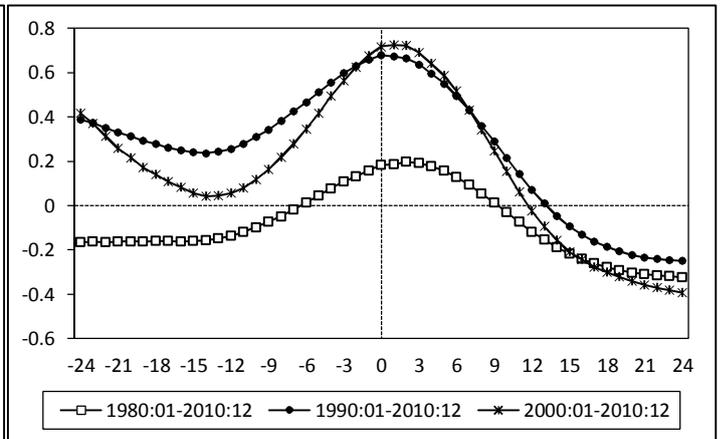
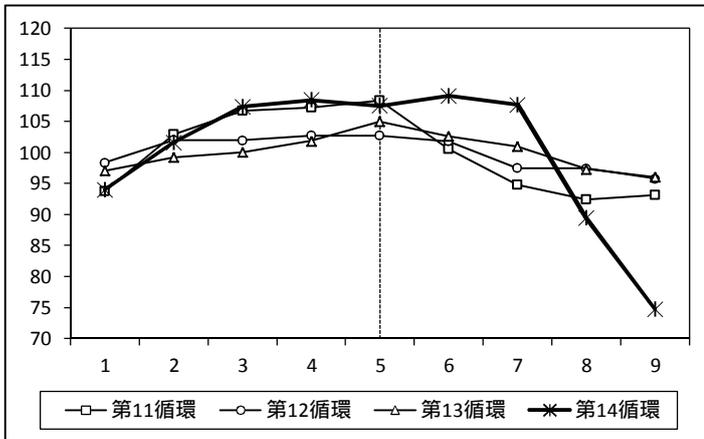


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:+2	第9～14循環:+4 第12～14循環:+3	3
	1990-2010:0		
	2000-2010:+1		

図1 Bry-Boschan法による山谷

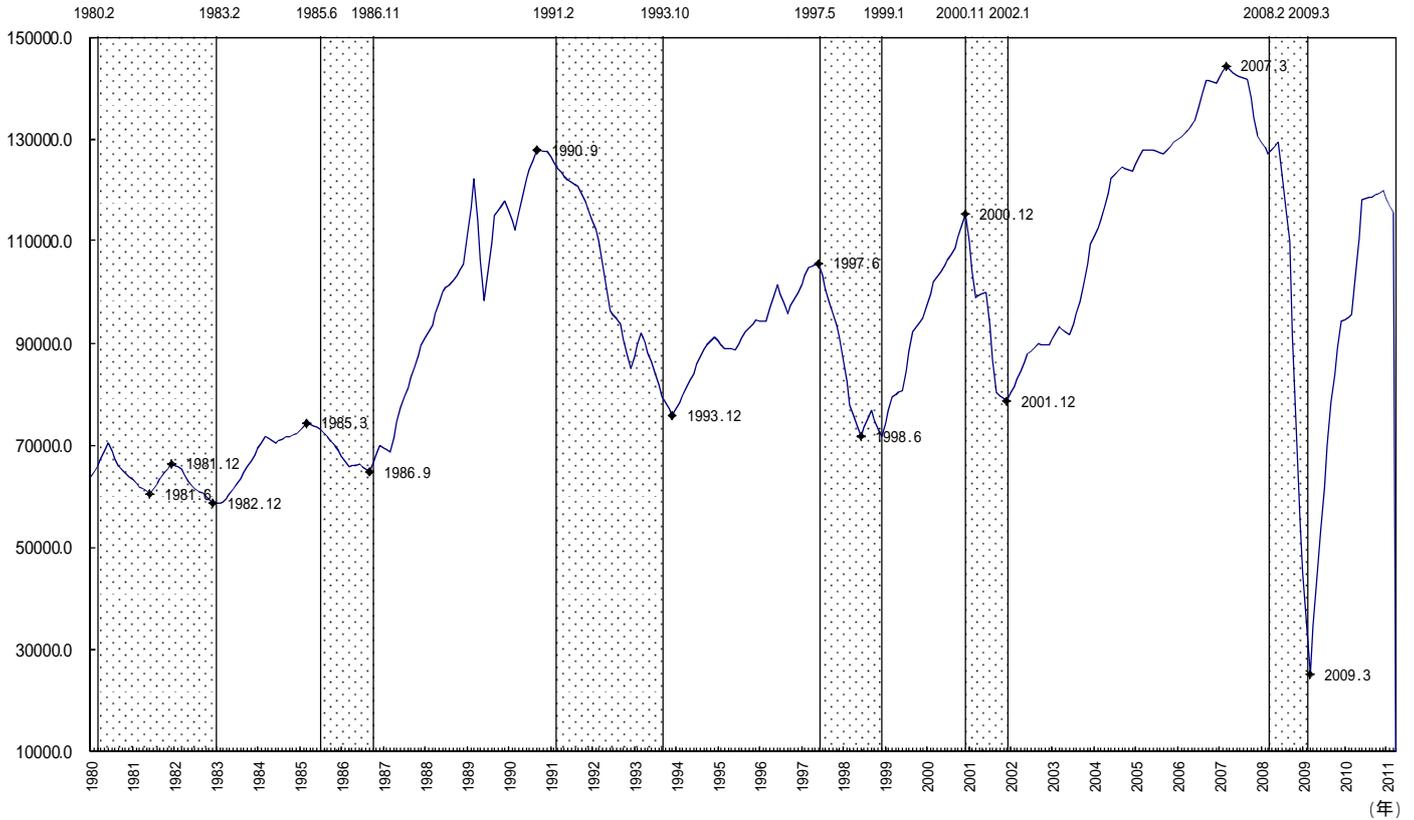


図2 パターン分析

図3 時差相関

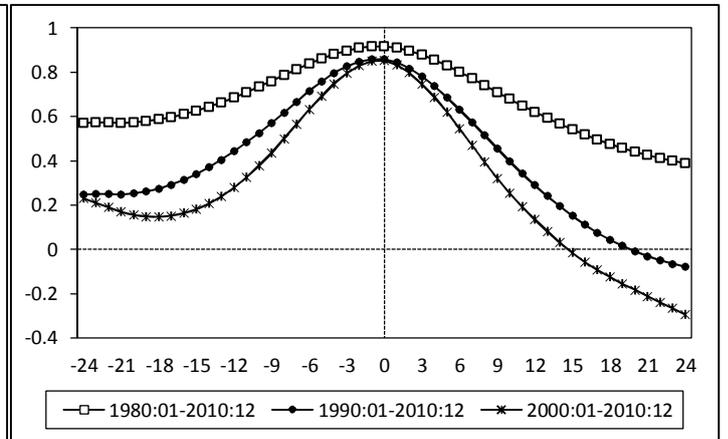
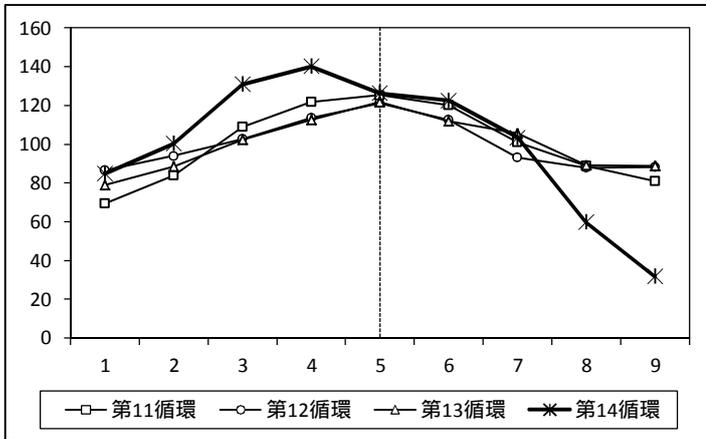


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:0	第9～14循環:0 第12～14循環:0	1
	1990-2010:0		
	2000-2010:0		

図1 Bry-Boschan法による山谷

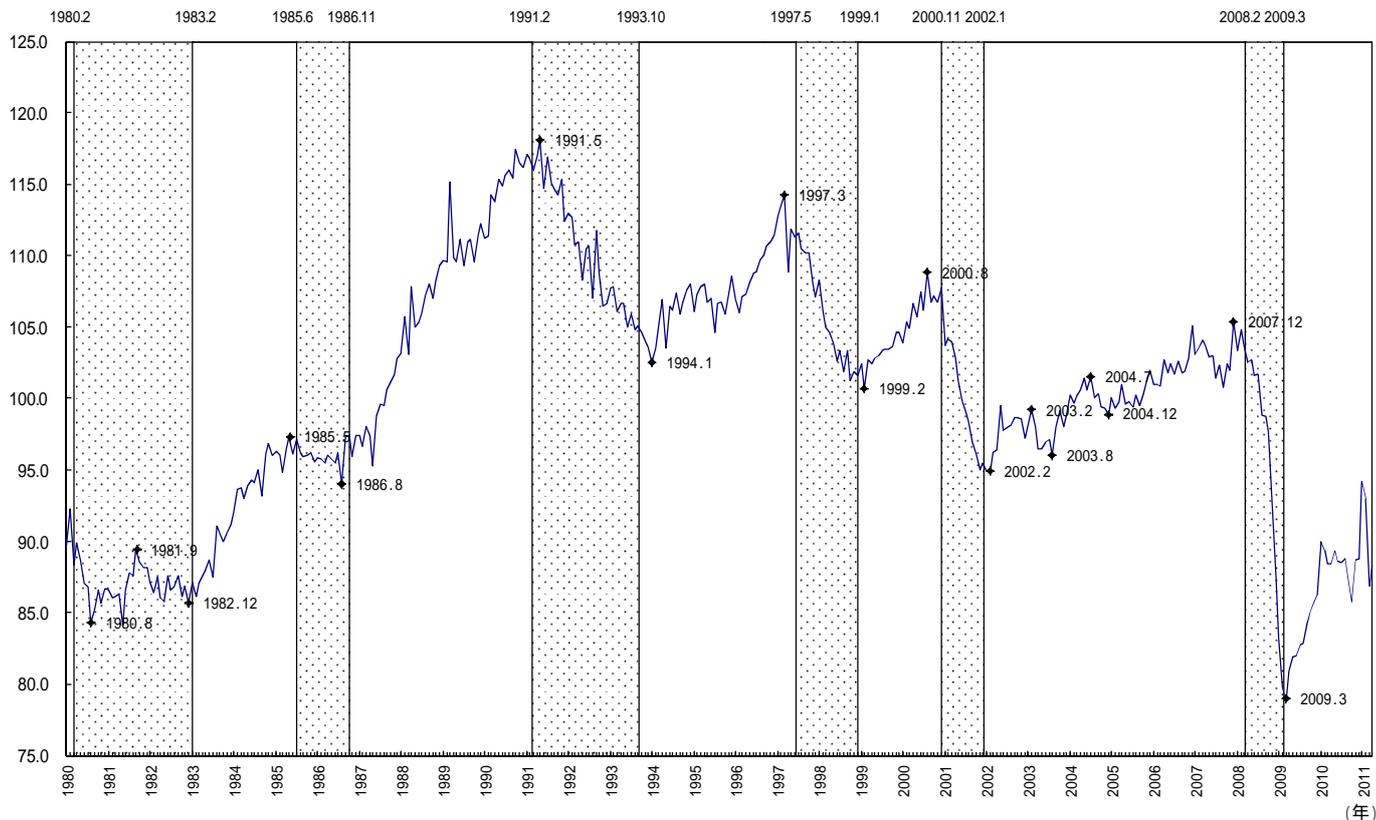


図2 パターン分析

図3 時差相関

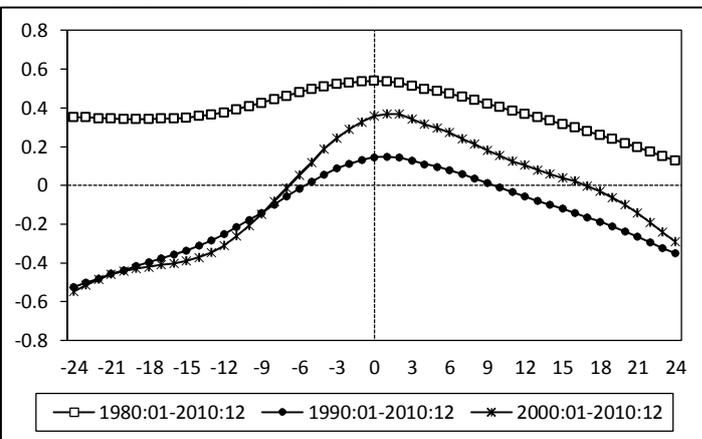
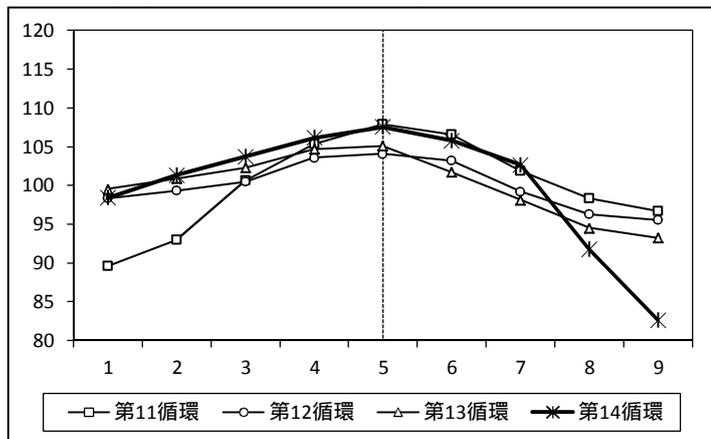


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:0	第9~14循環:+2 第12~14循環:+2	3
	1990-2010:+1		
	2000-2010:+1		

(参考) C10 中小企業売上高(製造業)

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:+2	第9~14循環:0 第12~14循環:0	3
	1990-2010:+2		
	2000-2010:+2		

図1 Bry-Boschan法による山谷

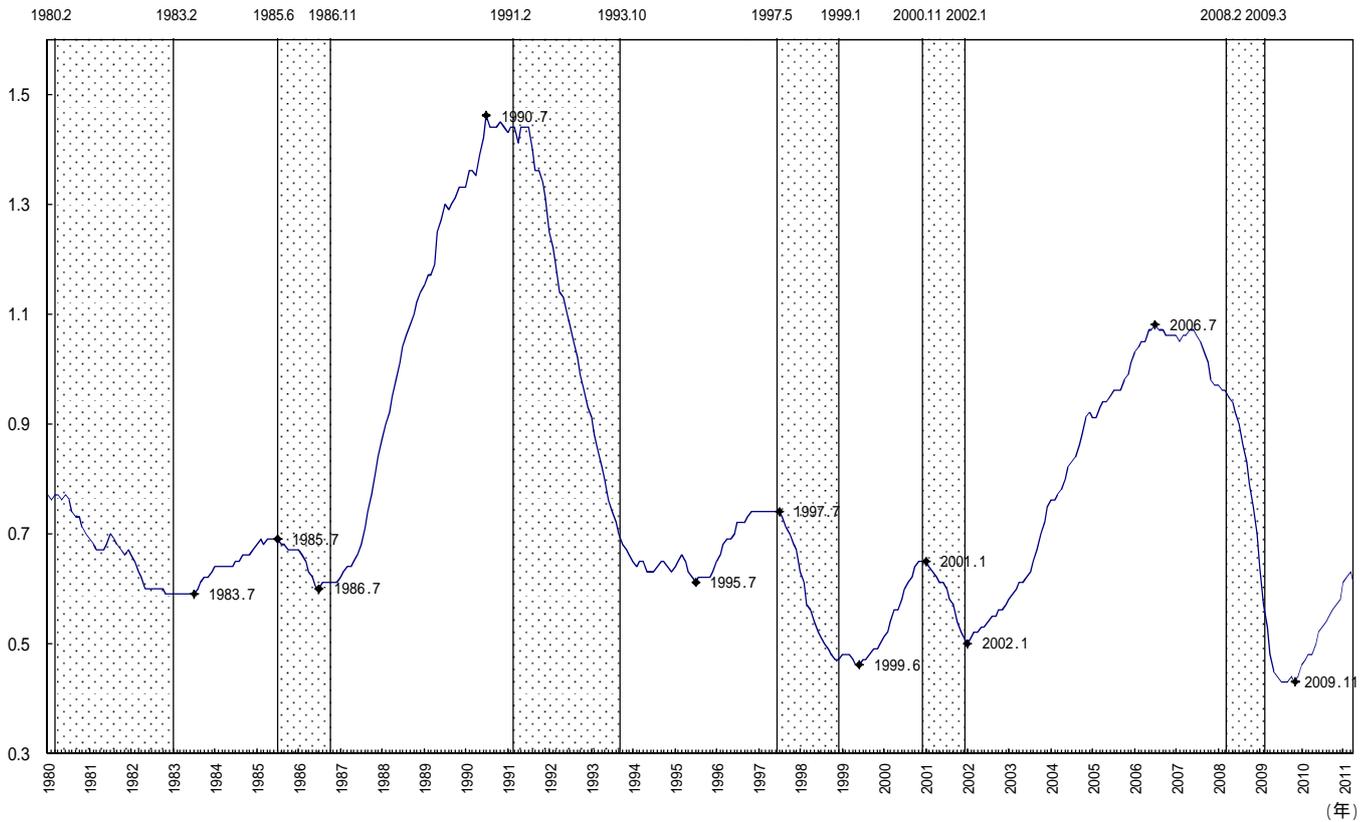


図2 パターン分析

図3 時差相関

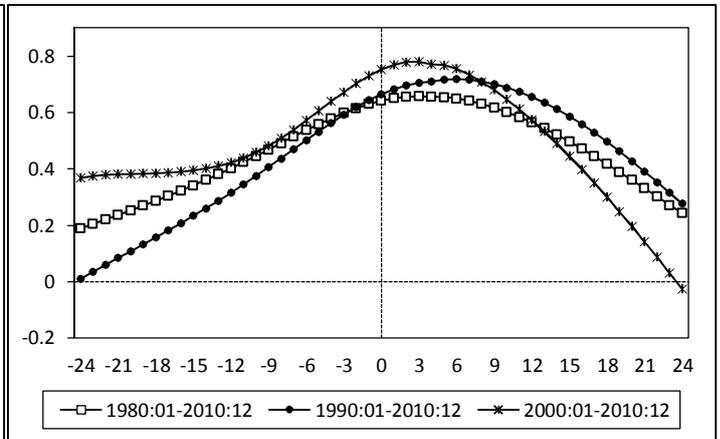
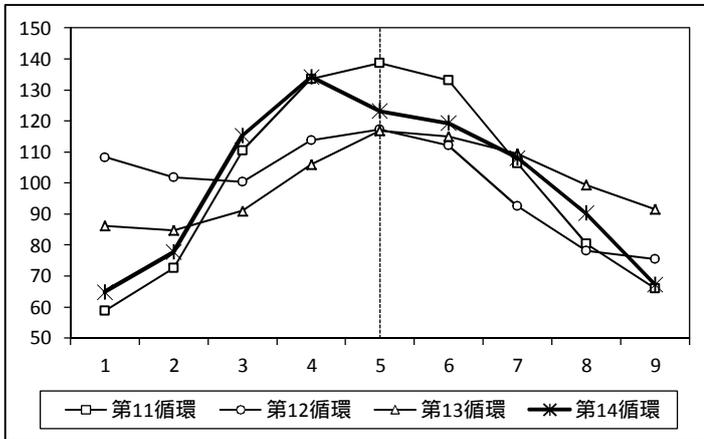


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:+3	第9～14循環:0 第12～14循環:0	1
	1990-2010:+6		
	2000-2010:+3		

(入替) Lg1 第3次産業活動指数 (対事業所サービス業) < 遅行 >

図1 Bry-Boschan法による山谷

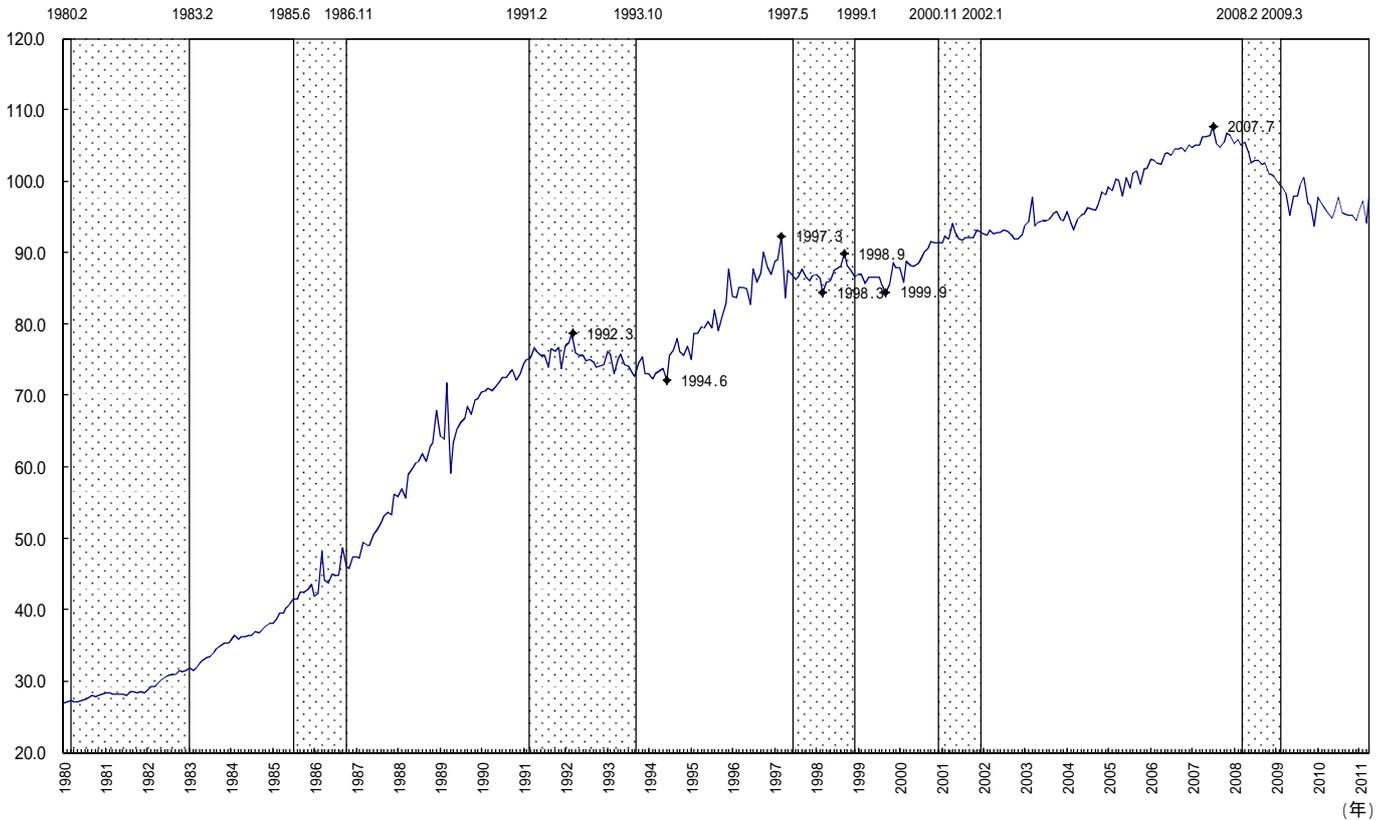


図2 パターン分析

図3 時差相関

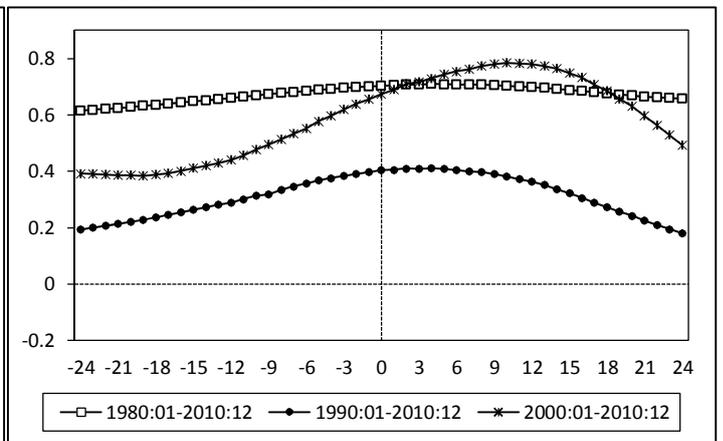
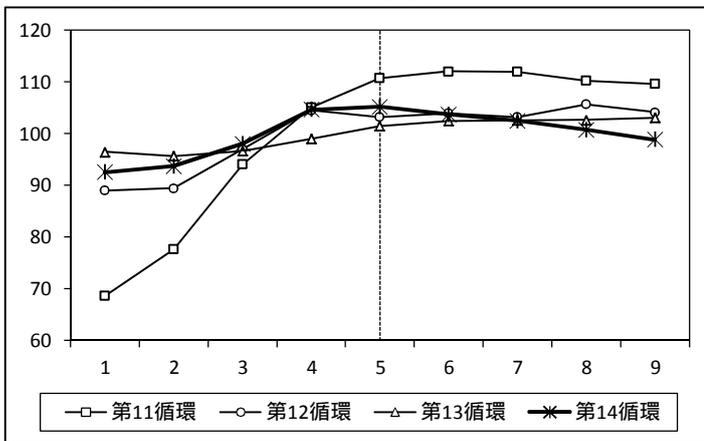


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:+4	第9～14循環:-2 第12～14循環:0	3
	1990-2010:+4		
	2000-2010:+10		

(参考) Lg1 第3次産業活動指数(旧定義による対事業所サービス業)

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:+4	第9～14循環:-2 第12～14循環:0	3
	1990-2010:+4		
	2000-2010:+13		

図1 Bry-Boschan法による山谷

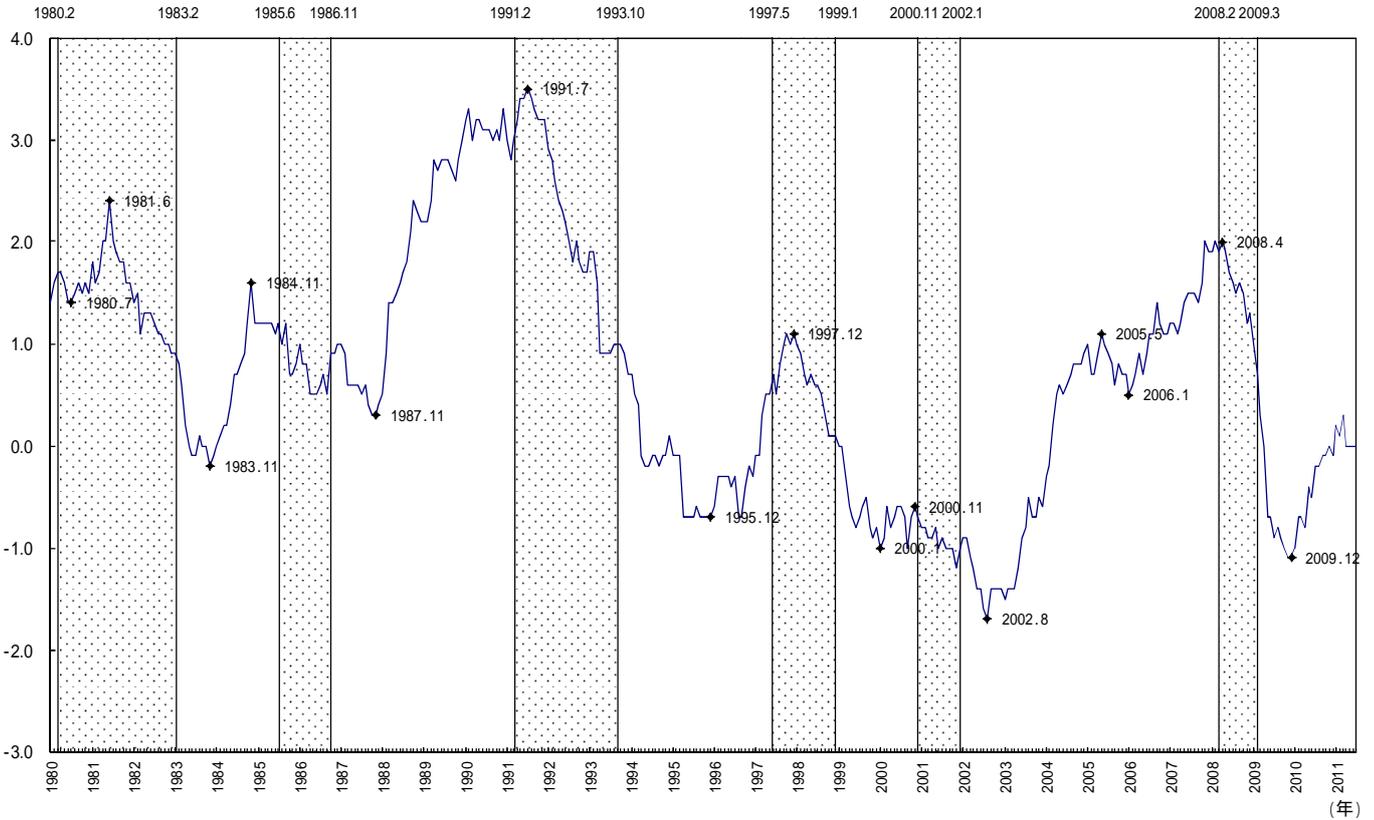


図2 パターン分析

図3 時差相関

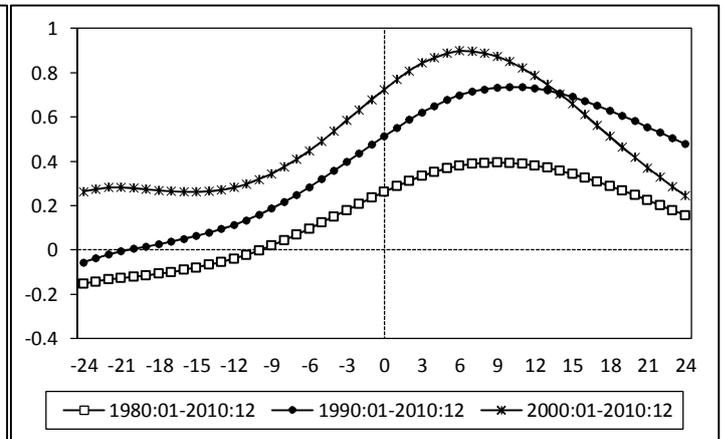
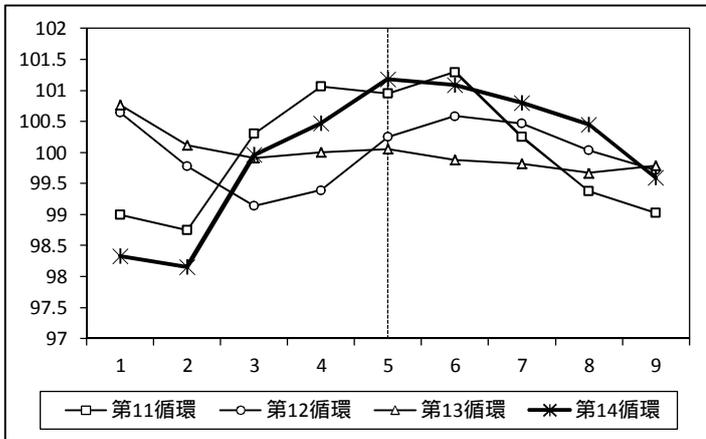


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:+9 1990-2010:+10 2000-2010:+6	第9～14循環:+1 第12～14循環:+1	2

(参考) Lg2 常用雇用指数 (製造業) (前年同月比)

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:+6 1990-2010:+7 2000-2010:+5	第9～14循環:+2 第12～14循環:+2	2

図1 Bry-Boschan法による山谷

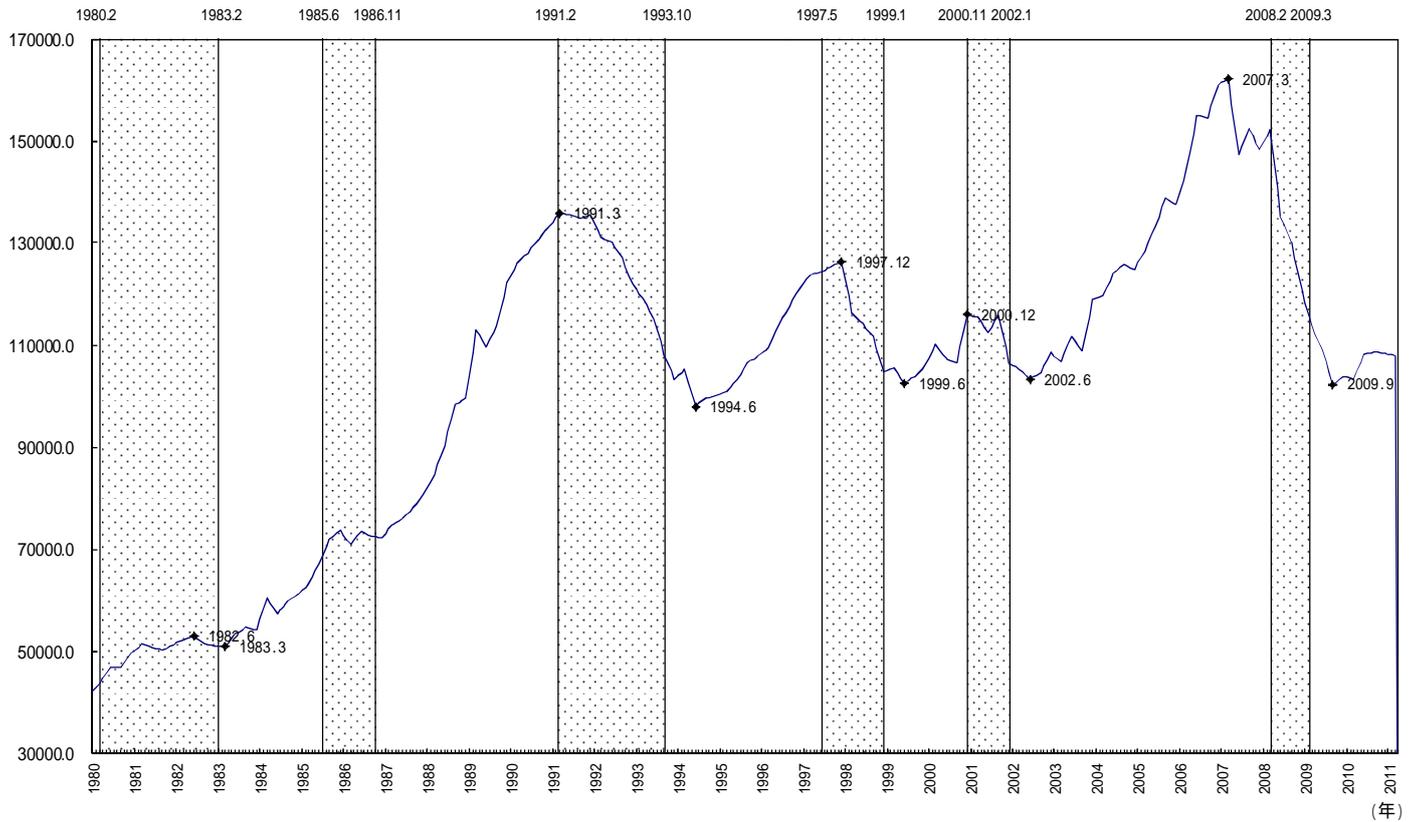


図2 パターン分析

図3 時差相関

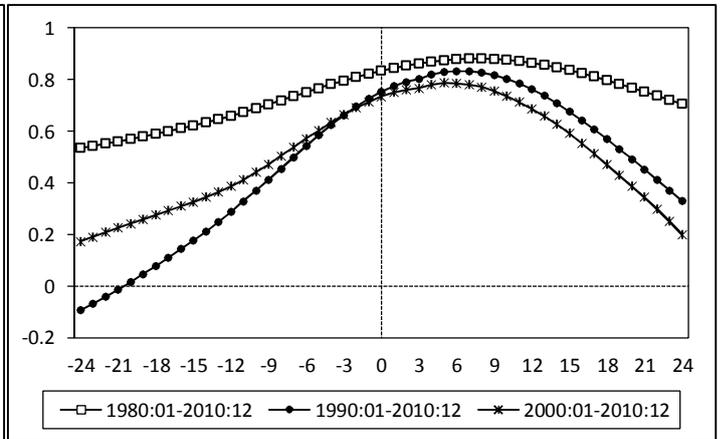
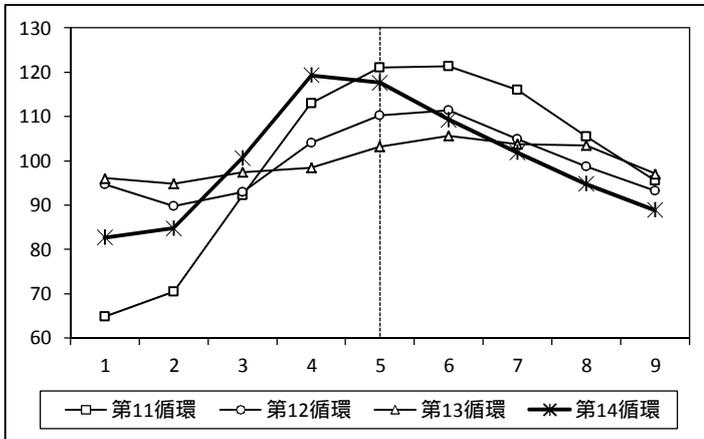


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:+8	第9～14循環:-1 第12～14循環:0	1
	1990-2010:+6		
	2000-2010:+5		

Lg4 家計消費支出（前年同月比）
（二人以上の勤労者世帯・農林漁家除く）

< 遅行 >

図1 Bry-Boschan法による山谷

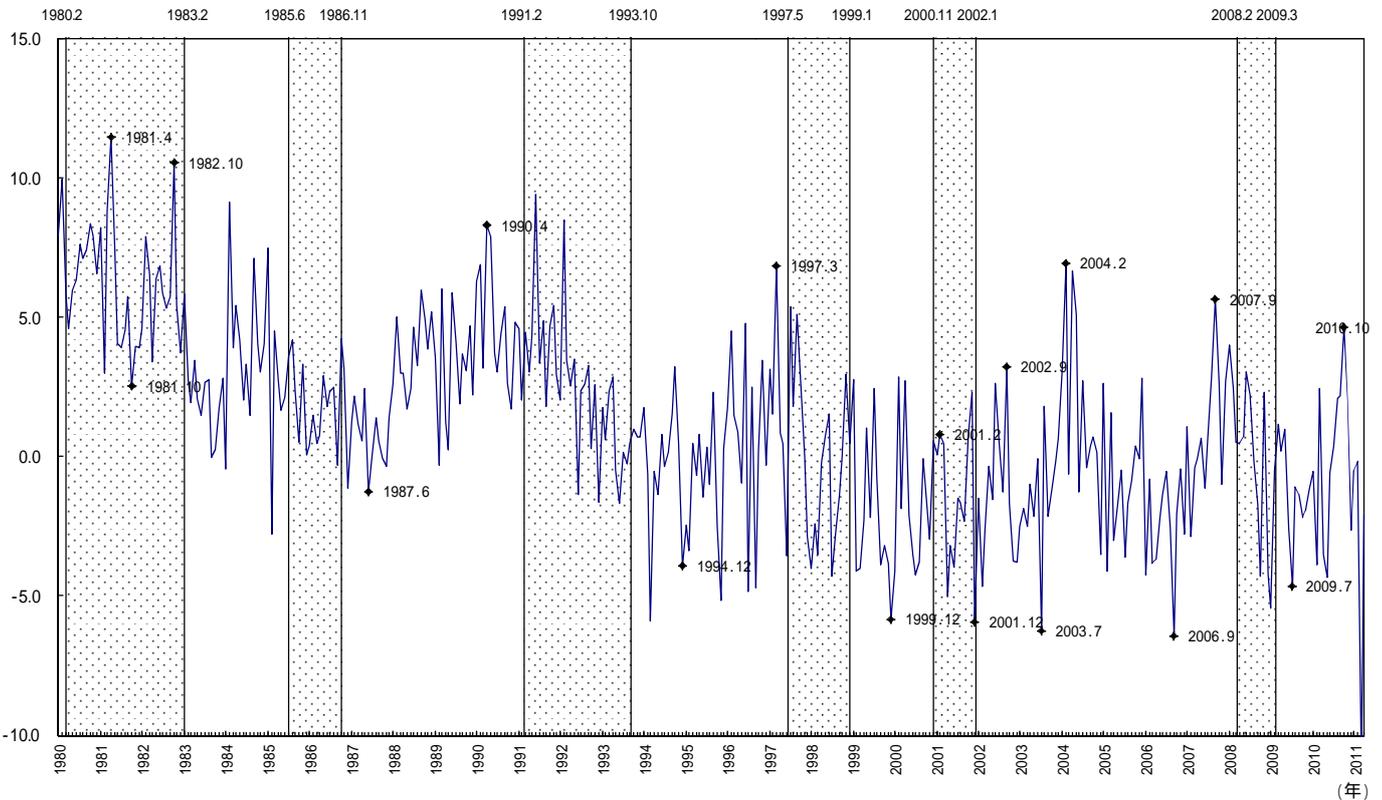


図2 パターン分析

図3 時差相関

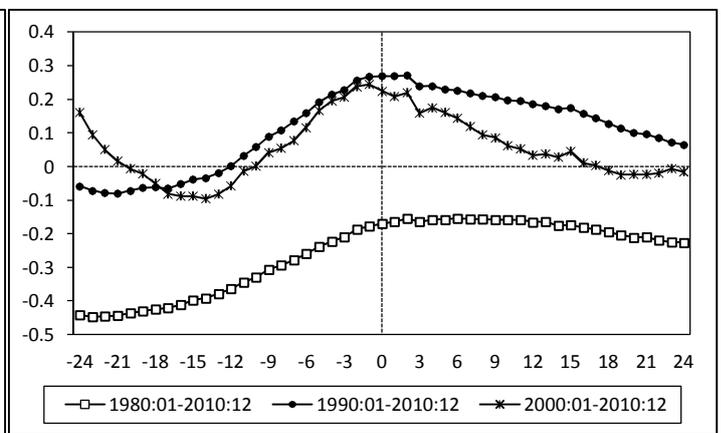
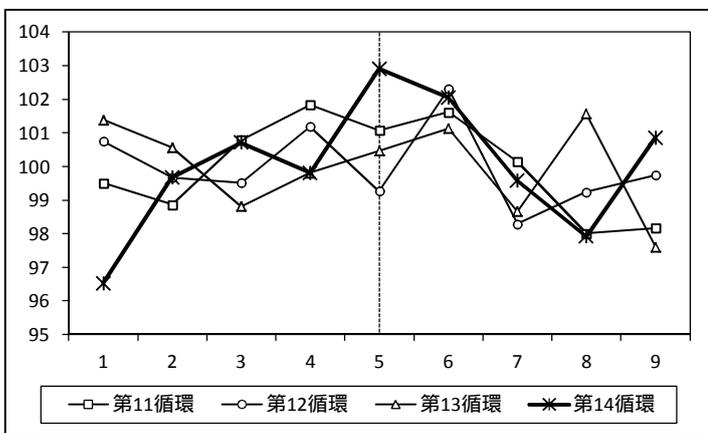


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:+2	第9～14循環:+2 第12～14循環:+2	-
	1990-2010:+2		
	2000-2010:-1		

図1 Bry-Boschan法による山谷

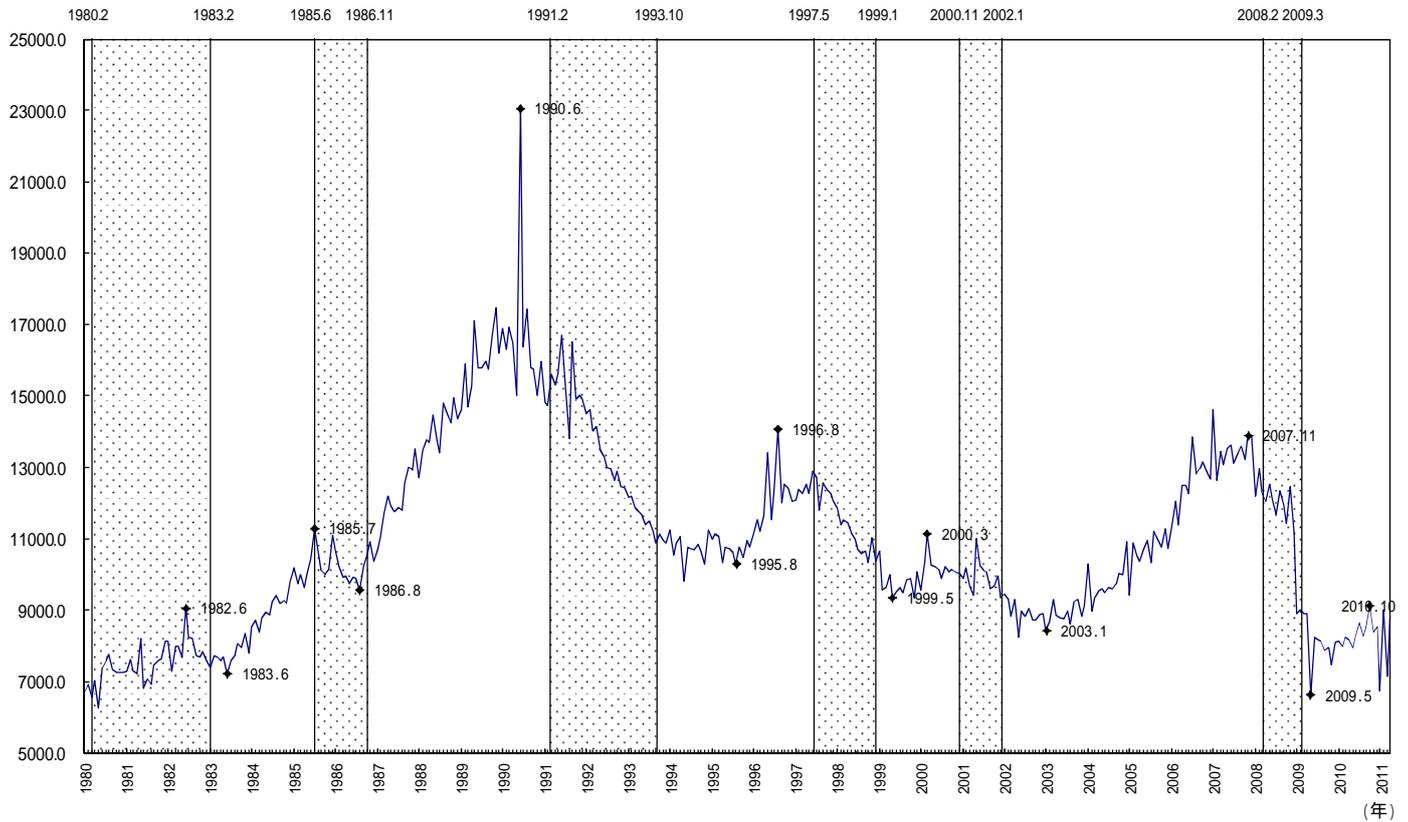


図2 パターン分析

図3 時差相関

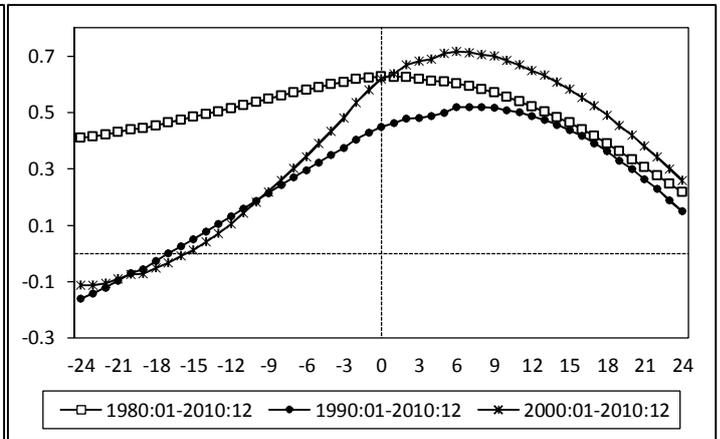
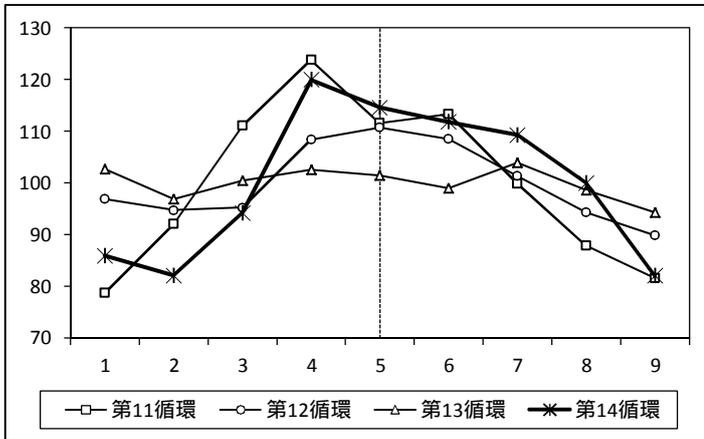


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010:0	第9～14循環:0 第12～14循環:0	5
	1990-2010:+7		
	2000-2010:+6		

図1 Bry-Boschan法による山谷

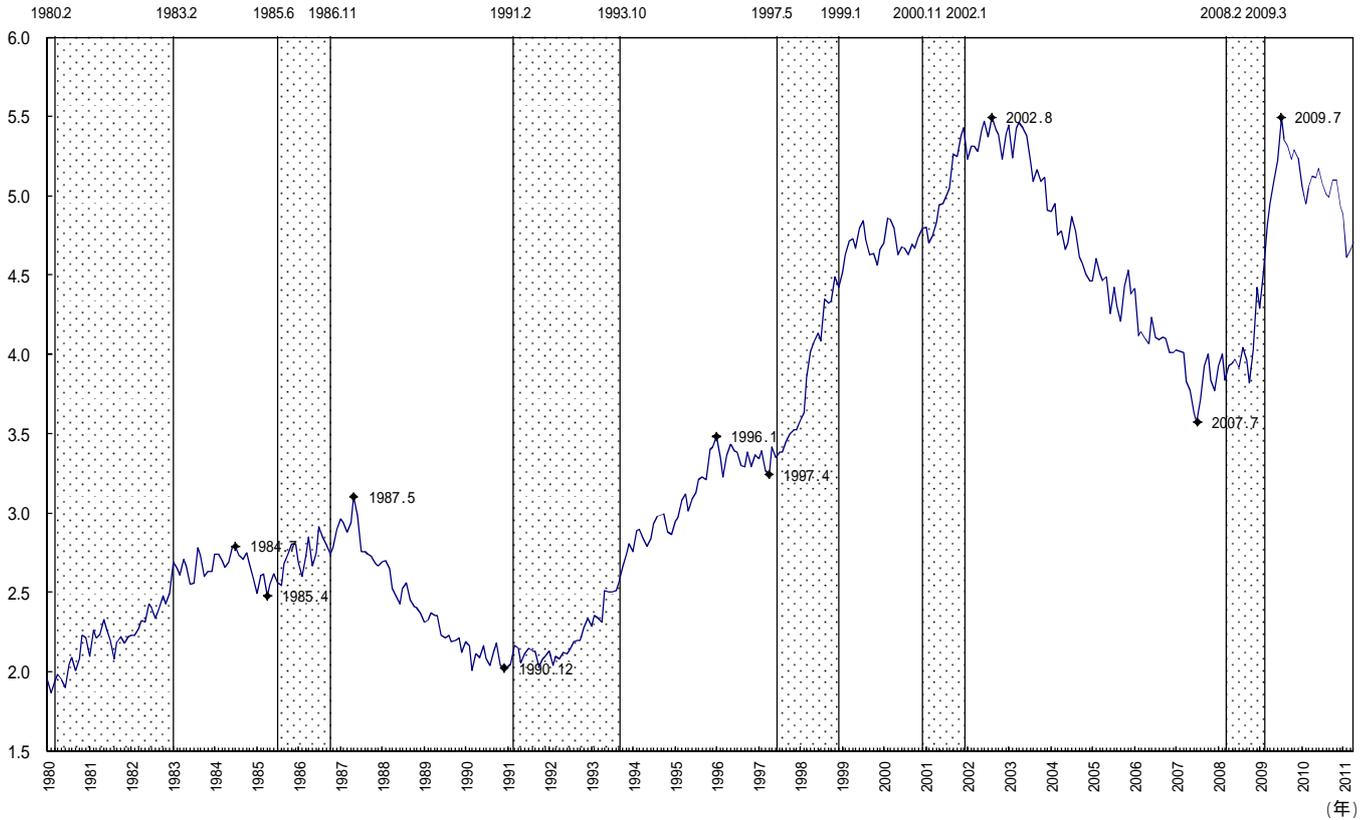


図2 パターン分析

図3 時差相関

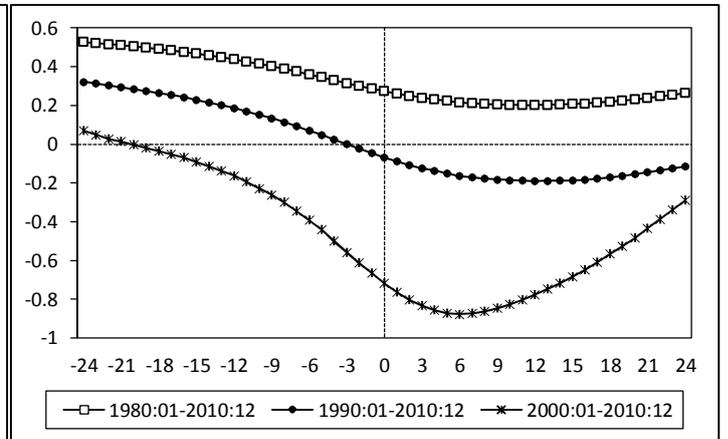
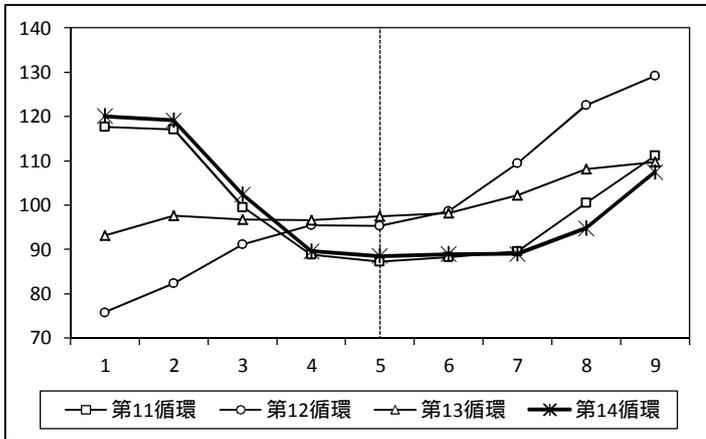


表1 パフォーマンス

循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
	1980-2010: +11	第9～14循環: -1 第12～14循環: 0	3
	1990-2010: +12		
	2000-2010: +6		

(参考)

個別系列のパフォーマンスの見方

図1 . Bry - Boschan 法による山谷

Bry - Boschan 法は、NBERが開発した手法で、山と谷との間隔が5ヶ月以上必要である、一循環の長さが15ヶ月以上必要であるなどのルールを条件として与え、各種移動平均を施すなどして系列の山谷を確定したもの。系列の山谷をみることにより、景気基準日付とのリード・ラグの関係や系列の振幅など、当該系列の特徴をチェックできる。

図2 . パターン分析

パターン分析は、NBERが開発した分析手法で、景気の1循環を9つのステージに分割し、指標の動きをこのステージに当てはめてパターン化したもの。ある特定の1循環における系列のステージ毎の動向の特徴を明確化することができる。また、いくつかの循環の動向を比較することで、景気基準日付とのリード・ラグの関係が安定しているかどうかをみることができる。

図3 . 時差相関

各系列とC I一致指数の時差相関係数をグラフ化したもの。時期によってC I一致指数とのリード・ラグの関係に変化が生じているか否かをチェックするため、1980～2010年、1990～2010年、2000～2010年の3期間について調べている。グラフの最大点では当該系列の順サイクルとしての寄与が最大となり、最小点では逆サイクルとしての寄与が最大となる。

表1 . パフォーマンス

【パターン分析】

ここでは、11～14循環のパターンを比較して、先行、一致、遅行指数の系列として妥当か否かを検証した。「+」は当該指数の系列として妥当であることを示し、「-」は必ずしもそうでないことを示す。

【時差相関係数】

時差相関係数が一番高い(低い)月数を示している。

【景気循環との対応性】

系列の循環回数が景気循環回数とほぼ同じであるのが望ましいことから、両者の差を計算した。ここでは9～14循環の長期スパンで見た場合と、12～14循環のより短いスパンで見た場合を示している。

【平滑度(MCD スパン)】

MCDスパンは、何ヶ月移動平均をとればスペンサー移動平均と同程度の滑らかさになるかを表す指標。小さいほど、データの動きが滑らかであるといえ、9以上の場合は「-」としている。